
Ness1000 シリーズ
Windows Server IoT 2022
システム・セットアップ/リカバリー・ガイド
(Ness1000/Ness1200)

第 1.0 版
2023/12/19



更新履歴

版数	日付	内容
1.0	2023/12/19	初版

はじめに

本書に含まれる内容は予告なく変更される場合があります。

株式会社ニューテックは、本に記載された製品の適合性、暗黙の保証、運用における損害、及び、本書の使用に関連した損害について責任を負いかねます。また、本書に記載された製品へ記録されたデータについて、その消失・誤記録における責任を負いかねます。

(データのバックアップは、システム管理者の責任において実施が必要です。)

本書は、著作権によって保護された情報を含んでおり、本書のいかなる部分も、株式会社ニューテックの書面による許可の無いまま、コピー、再版、他言語への翻訳を行ってはいけません。

株式会社ニューテック

<https://www.newtech.co.jp>

Copyright© 2024, Newtech Co., Ltd. All Rights Reserved.

本書について

本書は、Newtech Network Attached Storage (NAS) Ness1000 シリーズ (Ness1000/Ness1200) のハードウェア導入を完了した後の Windows Server IoT 2022 for Storage (以下 Windows NAS OS) のセットアップと運用にあたっての注意事項、リカバリー (出荷時構成の復元) について説明したものです。ご利用を開始する前にご一読下さい。

※掲載の例の図は機種説明がない限り、Ness1200 となります。

操作・使用方法につきましては別途「**Ness1000 シリーズ ユーザーズ・マニュアル**」を併せてご参照下さい。

Windows NAS OS の機能につきましては、OS のヘルプもご参考にしてください。

なお、出荷後にお客様にて追加された Windows OS の機能や役割についてのサポートは、弊社で行えませんので、あらかじめご了承ください。

目次

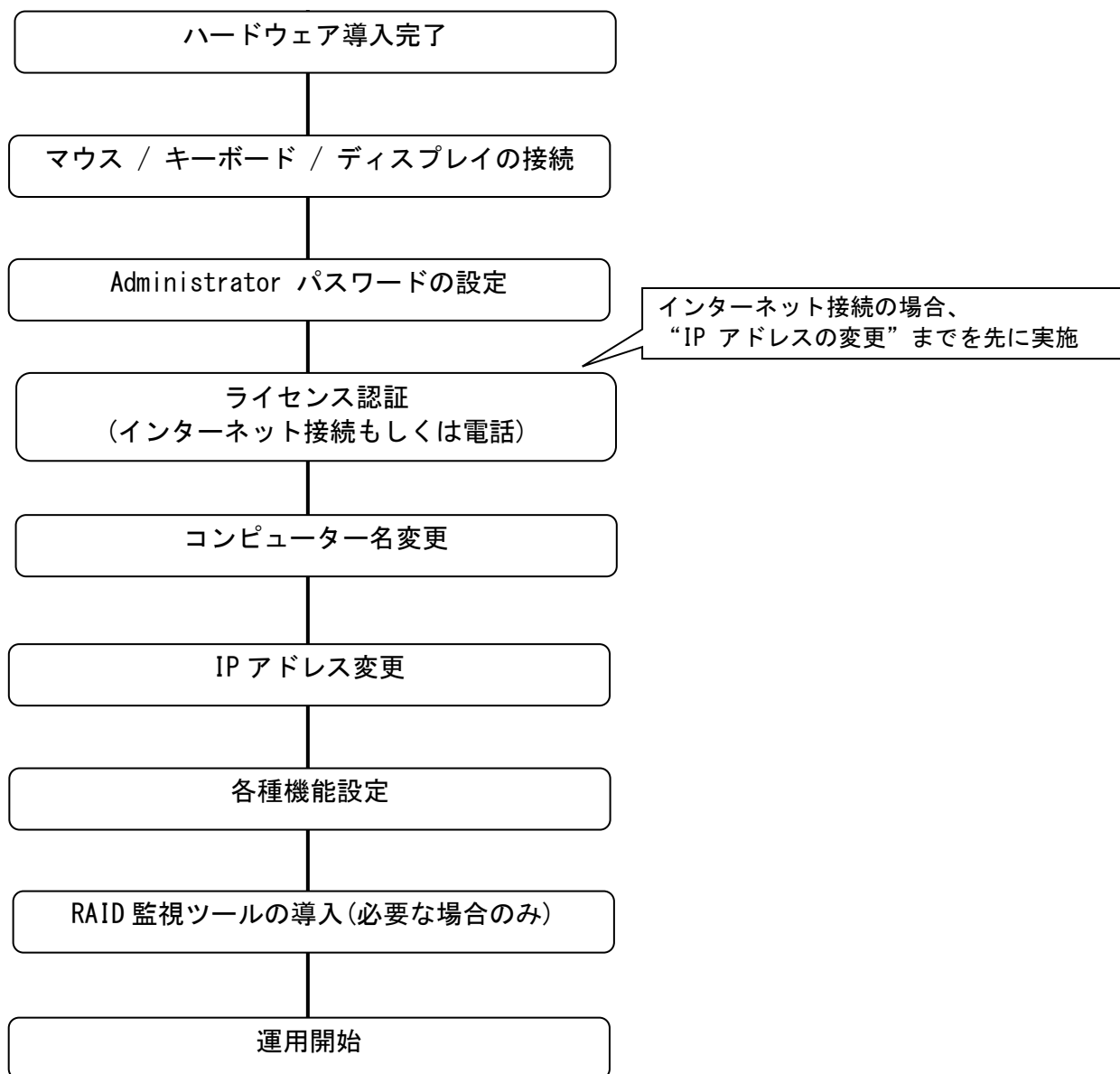
はじめに.....	iii
本書について.....	iii
目次.....	iv
1. Windows NAS OS セットアップ.....	1
1-1. セットアップの流れ.....	1
1-2. 用意するもの.....	2
1-3. セットアップ手順.....	2
1-3-1. Windows の初期セットアップ.....	2
1-3-2. ライセンス認証.....	4
1-3-3. コンピューター名の変更.....	5
1-3-4. IP アドレスの変更.....	5
1-3-5. RAID 監視ツールの導入.....	8
1-3-6. ボリュームの作成.....	8
2. 運用時の注意事項.....	14
2-1. OS プロダクト CD.....	14
2-2. Windows Update.....	14
2-3. 2TB 以上のディスク認識.....	14
2-4. 16TB 以上のパーティションのフォーマット.....	14
2-5. ボリュームシャドウコピーサービスの利用.....	14
2-6. データ領域の RAID パーティションサイズ変更.....	14
3. Windows 自動アップデート設定について.....	15
3-1. 当社 NAS 製品の Windows 自動アップデート設定について.....	15
3-2. 手動アップデート.....	15
3-2-1. スタンド・アロン・インストーラーで手動アップデート.....	16
3-2-2. オンラインで手動アップデート.....	16
3-3. 自動アップデートを有効に変更.....	18
3-4. 自動アップデートを無効に戻す.....	19
4. Windows Server IoT 2022 for Storage 操作/設定手順.....	20
4-1. OS のシャットダウン.....	20
4-2. ユーザーの作成.....	21
4-3. グループの作成.....	23
4-4. アクティブディレクトリ環境への参加.....	28
4-5. 共有フォルダーの作成.....	31
4-6. ネットワークドライブの割り当て.....	39
4-7. 日時の設定.....	41
4-8. NIC のチームング設定.....	42
4-8-1. チームングの設定.....	42
4-8-2. NIC チームの IP アドレスの設定.....	45
4-9. パスワードの変更.....	48
5. リモートデスクトップ設定.....	51
5-1. サーバー側の設定.....	51
5-2. Windows 10 からの接続例.....	57
6. リカバリー手順.....	60
6-1-1. 準備部材.....	60
6-1-2. 起動可能な USB メモリの作成.....	60
6-1-3. リカバリー手順.....	63

1. Windows NAS OS セットアップ

1-1. セットアップの流れ

Windows NAS OS を利用するためには、ハードウェアの導入を完了した後に OS のセットアップを行う必要があります。ここでは、Windows NAS OS のセットアップについて説明します。

以下に、Windows NAS OS を利用するまでの流れを記します。



1-2. 用意するもの

- ① アナログ RGB コネクタ (D-Sub15 ピン, Ness1000) /HDMI ポート (Ness1000/Ness1200) を持つディスプレイ
- ② キーボード
- ③ マウス
- ④ プロダクトキー
- ⑤ アクティベーションを行うためのインターネット接続環境もしくは電話
- ⑥ 既存ネットワーク接続用のネットワークケーブル

注意： プロダクトキーは機器本体の側面に貼られています、あらかじめ 25 文字のプロダクトキーを控えておくようお願いします。

1-3. セットアップ手順

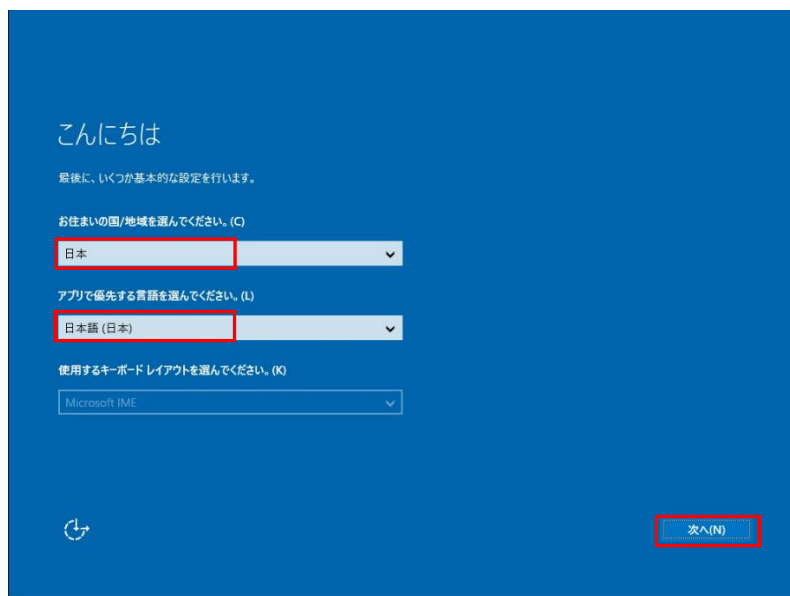
機器本体背面にマウス、キーボード、ディスプレイを接続します。このときネットワークケーブルは接続しないで下さい。

機器本体の電源を入れます。“デバイスの準備中” → “準備中” と表示された後、自動的に一度再起動します。

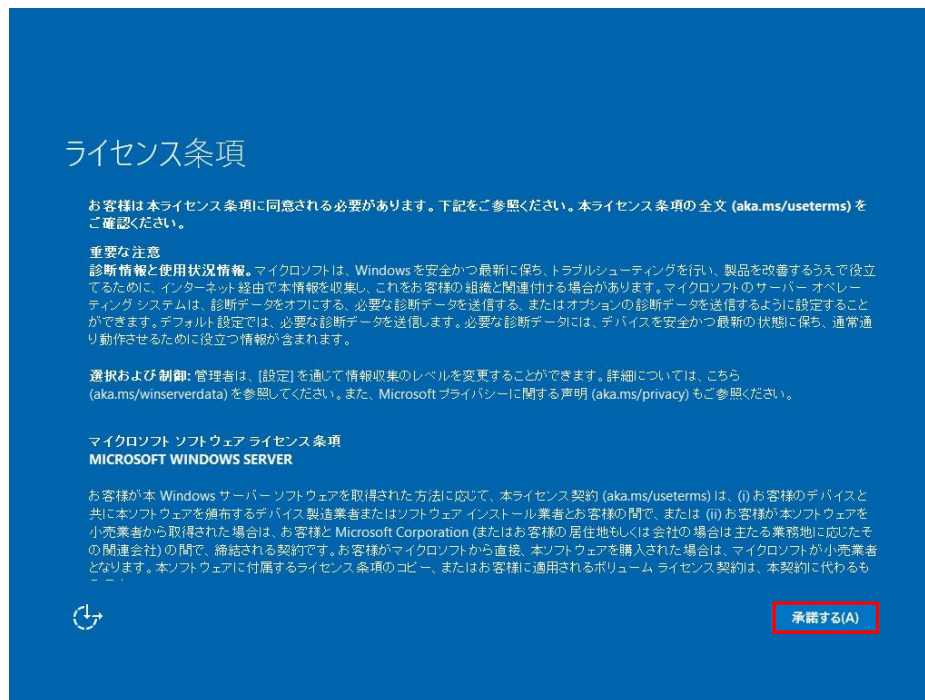
その後 Windows のセットアップが表示されます。

1-3-1. Windows の初期セットアップ

国／地域に“日本”、言語に“日本語（日本）”を選択して、[次へ]を押します。



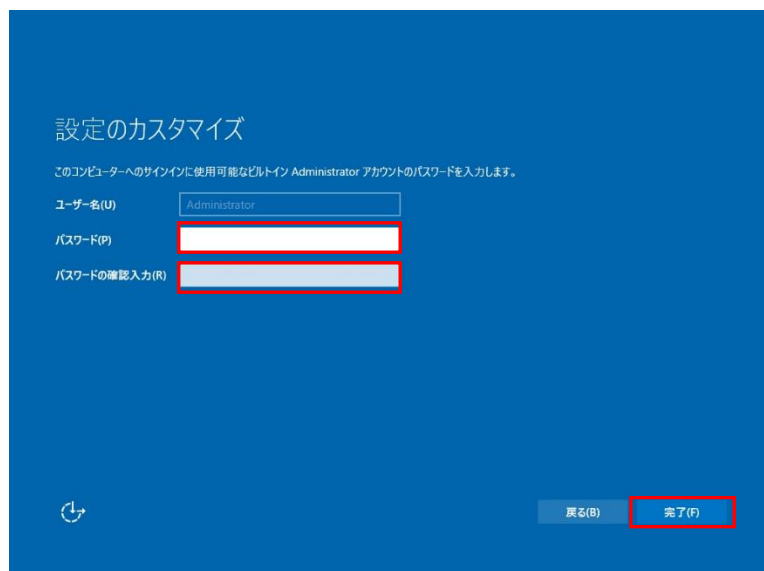
ライセンス条項を表示します、[承諾する] を押します。



Administrator のパスワードを設定します。

注意： パスワードを忘れると、ログオンすることができなくなりますのでメモを取るなどの対処をお願いします。

パスワードを入力して、[完了] をクリックします。



以下画面が表示され、キーボードから【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーを押し、ログイン画面を表示させます。パスワードを入力しログインします。



1-3-2. ライセンス認証

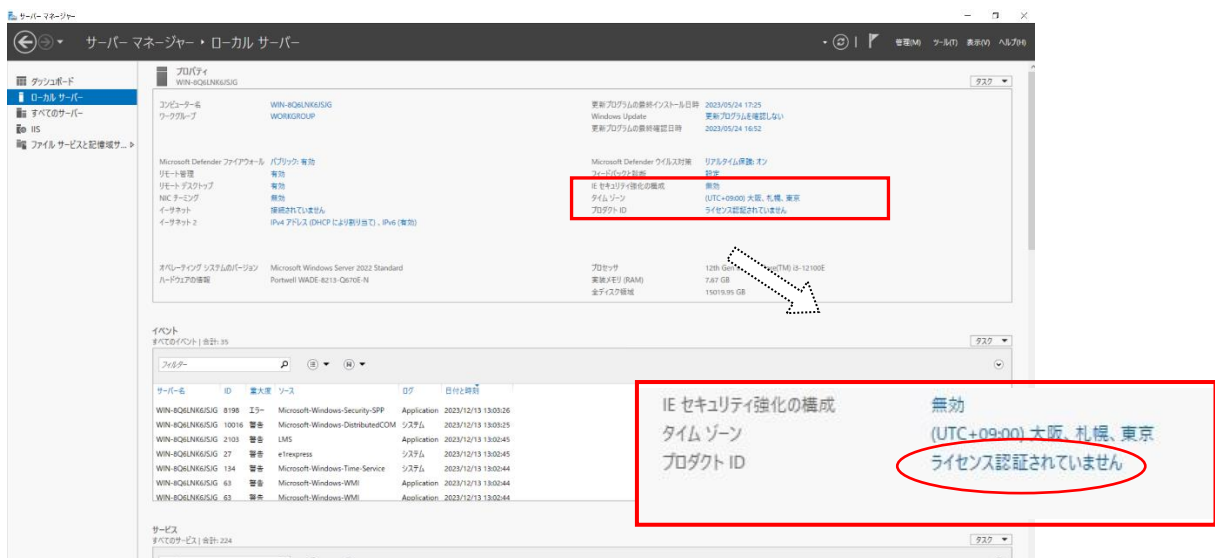
ライセンス認証の手続きには 2 通りあります。

- ・インターネット経由
- ・ライセンス認証専用窓口に電話する

インターネット接続で行う場合は、先にネットワークの設定を行なう必要があります。

ライセンス認証を行うには、[サーバー マネージャー] - [ダッシュボード] - [ローカルサーバー] 画面からプロダクト ID の横にある“ライセンス認証されていません”をクリックし、画面の指示に従って手続きを行います。

製品本体に貼付されている、ライセンスシールのプロダクトキーを入力してください。認証が完了したら、“ライセンス認証されています”に変わります。



注意：既にライセンス認証の手続きを完了した後でリカバリ操作を行った場合は、ライセンス認証専用窓口の担当者に電話してライセンス認証を行う必要があります。インターネット経由では認証されません。窓口の担当者には、“OSの再インストールをしたのでライセンス認証をしてほしい”と伝えて下さい。いくつか質問に回答し、指示に従ってライセンス認証の手続きを行なって下さい。

1-3-3. コンピューター名の変更

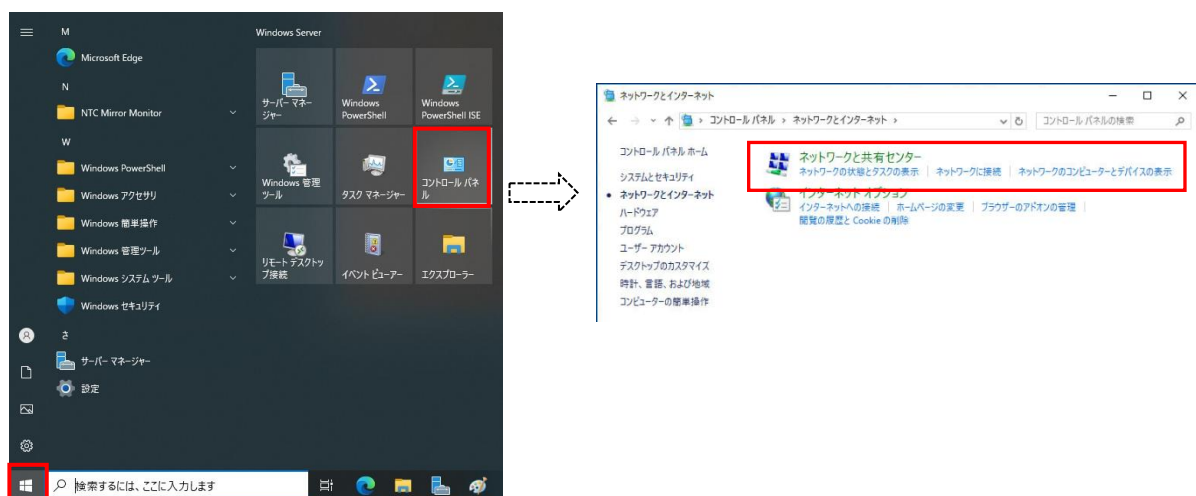
[サーバーマネージャー] - [ローカルサーバー]を選択します。”コンピューター名”をクリックすると“プロパティ”画面が表示され、[変更]をクリックして、コンピューター名の変更が可能となります。



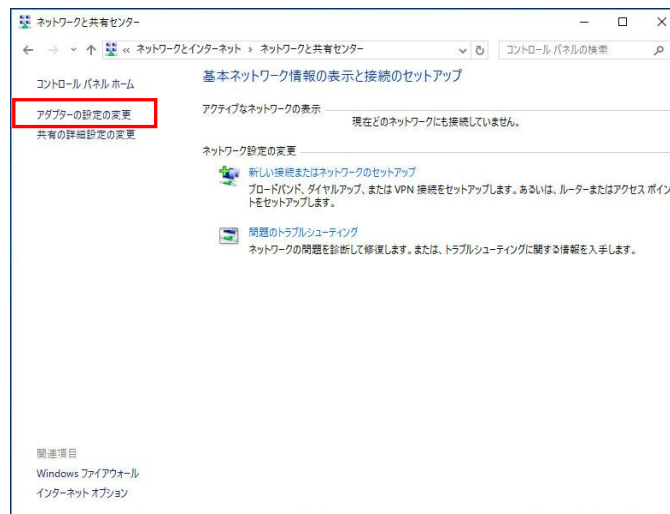
1-3-4. IP アドレスの変更

デフォルトではすべてのLANポートとも、“IPアドレスを自動的に取得する(DHCP)”となっています。下記の手順にしたがって、IPアドレスを変更します。

[スタート]左クリック→[コントロールパネル] → [ネットワークとインターネット] → [ネットワークと共有センター]を選択します。



[アダプターの設定の変更]をクリックすると、“ネットワーク接続”画面が開きます。

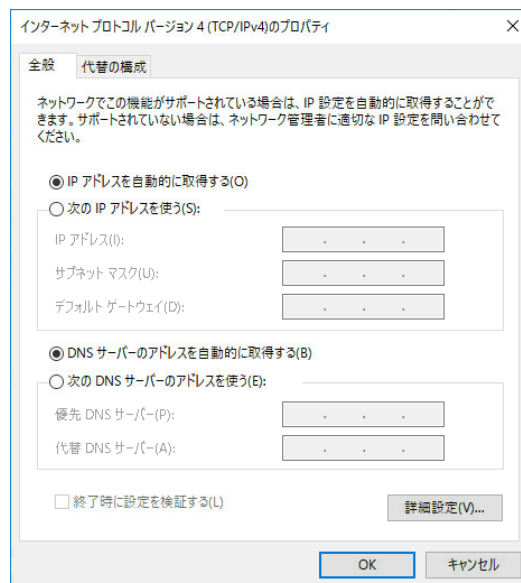


変更するイーサネット（ローカルエリア接続）を右クリックして【プロパティ】を選びます。

“インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IP)”（ご利用環境によってはバージョン 6）をハイライトして【プロパティ】を押して IP アドレスを設定します。



“インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IP)のプロパティ” 画面にて IP アドレスを設定します。



注意： ネットワークカードのチーム化を行う場合は、後述の“NICのチームング設定”をご参照下さい。

機器本体にネットワークケーブルを挿して、“ネットワーク接続”画面の各ローカルエリア接続の状態が“ネットワークケーブルが接続されていません”から“接続”になることを確認します。

インターネット経由にてライセンス認証を行う場合は、インターネットに接続できることを確認してからアクティベーションを行います。

注意： Windows NAS OS 利用開始の際、必ず後述の“運用時の注意事項”をご確認下さい。


1-3-5. RAID 監視ツールの導入

RAID 監視ツールの導入を行なうことで、RAID 状態の確認やディスク障害時のメール通知等が可能となります。

Nss1000 シリーズは出荷時すでに RAID 監視ツール (NTC Mirror Monitor) がインストール済みです。RAID 監視ツールとメール通知機能は「ミラーモニターユーザズ・マニュアル」を参照してください。

1-3-6. ボリュームの作成

注意： 本製品出荷時に、データ保存用の RAID ボリュームが作成されておられません、お客様が自分の利用場面に合わせて、パーティションの数、パーティションの容量を決めて、パーティションを作成する必要があります。

データ保存に利用するボリュームの作成には、[スタート]  ボタンを右クリック → [コンピューターの管理] を選択します。

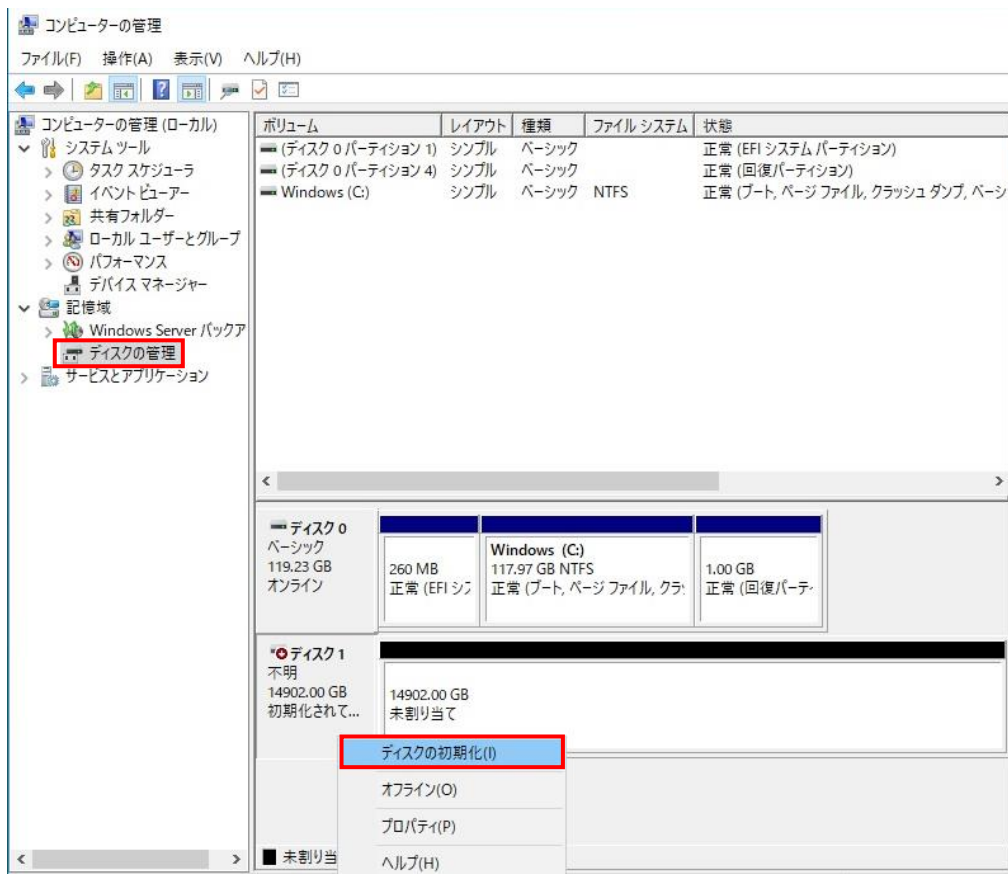


[記憶域] → [ディスクの管理]から設定します。

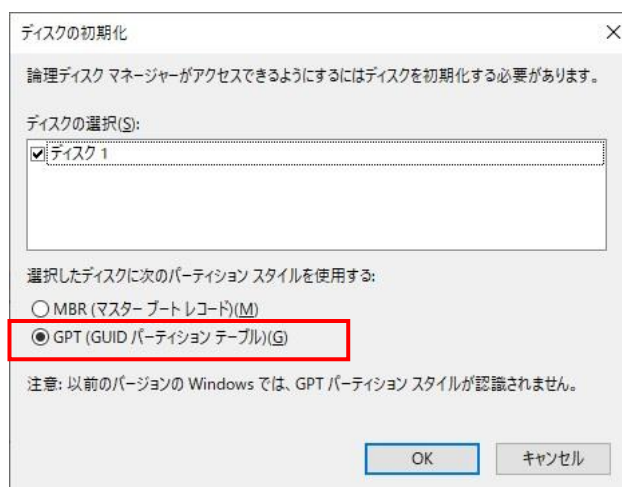
下記にボリュームの作成例を示します。本例では、ディスク 1 を使用可能にする例を示します。

ボリューム作成の前に、後述の“**運用時の注意事項**”を事前に確認してください。

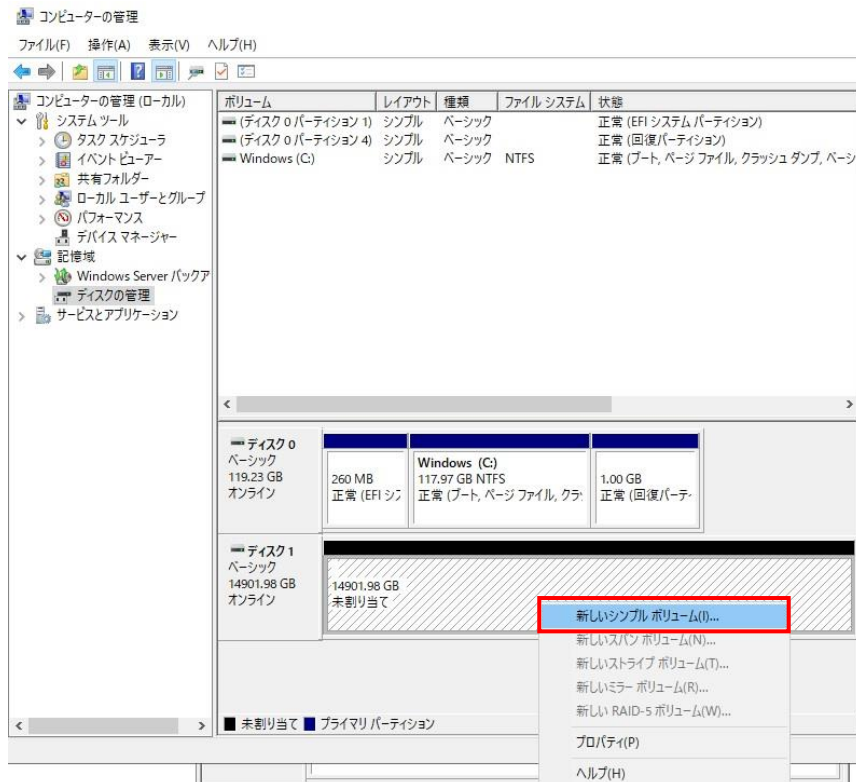
1. データ用ディスク(ここではディスク 1)に“初期化されていません”が表示されている場合は、初めに初期化を行います。右クリックから**[ディスクの初期化]**を選びます。



2. 2TB 以上のデータ用ディスクを使用する場合は、GPT ボリュームを選択します。[OK]を押します。



3. ボリューム作成のため、未割り当ての部分を右クリックし、[新しいシンプルボリューム]を選択します。



4. ウィザードに従いボリュームを作成します。[次へ]を選びます。



5. ボリュームの容量を MB で指定します。指定しない場合は最大容量が入力されます。

新しいシンプル ボリューム ウィザード

ボリューム サイズの指定
最小サイズと最大サイズの間でボリュームのサイズを選択してください。

最大ディスク領域 (MB): 15259628
最小ディスク領域 (MB): 8
シンプル ボリューム サイズ (MB)(S): 15259628

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. ドライブレターを割り当てます。通常、C から始めて空いているいちばん若いアルファベットを利用します。その他の選択は、特殊用途以外では利用しません。

新しいシンプル ボリューム ウィザード

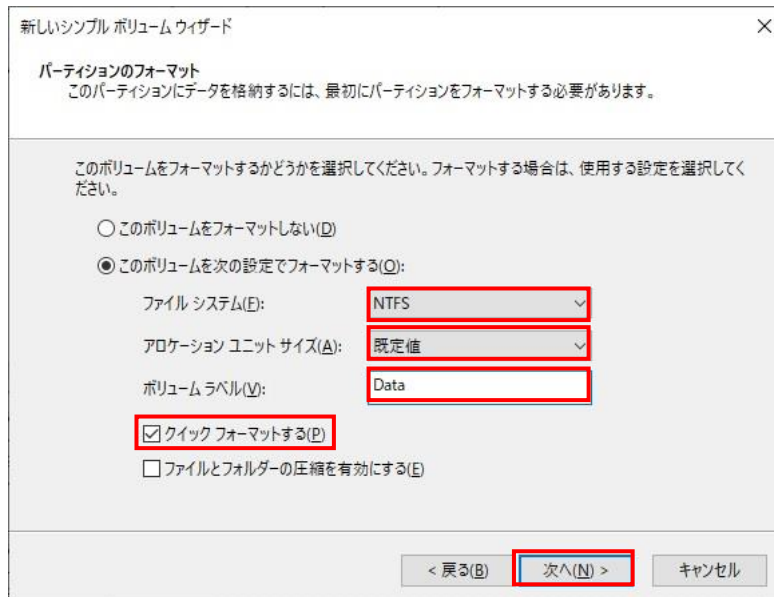
ドライブ文字またはパスの割り当て
アクセスを簡単にするために、ドライブ文字またはドライブ パスをパーティションに割り当てることができます。

次のドライブ文字を割り当てる(A): D
 次の空の NTFS フォルダにマウントする(M): 参照(B)...
 ドライブ文字またはドライブ パスを割り当てない(D)

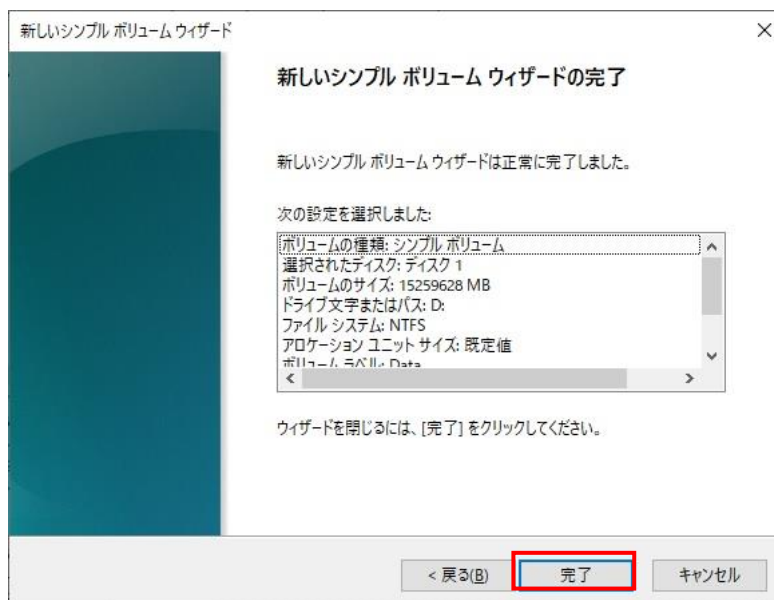
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. フォーマットの設定を行います。

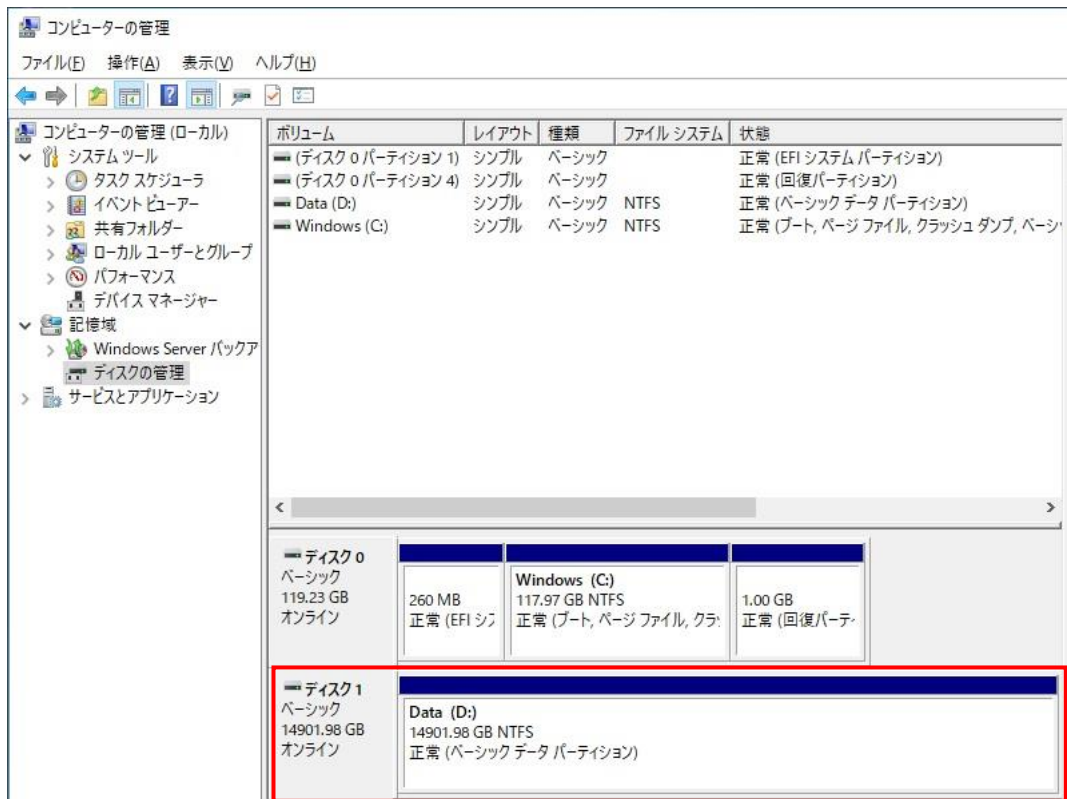
- ・ファイルシステム：NTFS を選択します。他のファイルシステムは使用しないでください。
- ・アロケーションユニットサイズ：パーティションのアロケーションユニットサイズを指定します。
- ・ボリュームラベル：マイコンピュータ等から表示されるボリュームラベルを設定します。
- ・クイックフォーマット：通常はチェックボックスを有効にします。



8. [完了]を選択するとボリュームの作成が開始されます。



9. ボリュームが正常状態になったことを確認します。エクスプローラーからもボリュームとして認識可能となります。



2. 運用時の注意事項

2-1. OS プロダクト CD

本製品には OS プロダクト CD は同梱されておりません。

2-2. Windows Update

ソフトウェア更新プログラムがマイクロソフトより提供されており、種類として主に、セキュリティ更新プログラム、更新プログラム、更新プログラムのロールアップ、サービスパック等があります。ソフトウェア更新プログラムは、お問合せいただいた問題を解決するために弊社から回答しているもののみ適用していただくようお願い致します。

お客様ご自身でソフトウェア更新プログラムを適用する際は、利用環境での必要性を判断していただくとともに、問題が改善されない場合や他の機能に影響を及ぼす場合は該当のソフトウェア更新プログラムを削除していただくようお願い致します。

Windows Update に関する詳細情報は、「**Windows 自動アップデート設定について**」の章を参照してください。

注意： 使用開始直後は自動更新が無効の状態です。不必要なソフトウェア更新プログラムが自動的に適用されることを避けるため、自動更新を無効に設定していただくようお願い致します。

2-3. 2TB 以上のディスク認識

ディスクの管理で、ディスクの初期化を行う際、2TB 以上のディスクを認識させる場合は、GPT (GUIDパーティションテーブル) を選択する必要があります。

2-4. 16TB 以上のパーティションのフォーマット

ディスクのパーティションが 16TB 以上の場合、既定値のアロケーションユニットサイズではフォーマットできません。16KB 以上を指定してフォーマットしてください。

2-5. ボリュームシャドウコピーサービスの利用

記憶域ボリュームには保護対象ボリュームと異なる個別のボリュームを使用してください。また保護対象ボリュームを最適化する予定がある場合、実行中にスナップショットが削除されることがあるため、NTFS ボリュームのフォーマット時アロケーションユニットサイズを 16KB 以上にしてください。

2-6. データ領域の RAID パーティションサイズ変更

データ領域の RAID 構成もしくは RAID パーティションサイズの変更を行う場合は、あらかじめ [ディスクの管理] でデータ領域のパーティションやボリュームを削除しておく必要があります。この操作を行わないと、次回以降の OS 起動に時間がかかるといった不具合が生じることがあります。

3. Windows 自動アップデート設定について

3-1. 当社 NAS 製品の Windows 自動アップデート設定について

サーバー用途 Windows 搭載機において、アップデートの自動適用に伴う予定外の再起動、アップデート適用により偶発的に発生し得る予期せぬ障害を回避するために、サーバー運用方法としてよくみられる手法として、「Microsoft がアップデート配布後、一定期間適用を保留し、障害発生情報無を判断した上で再起動可能なスケジュールで運用管理者がアップデートを行う」ものがあります。当社製品はこの形に沿い、工場出荷状態では自動アップデートが無効に設定されています。

注意

工場出荷設定で自動アップデートを行わない状態にしておりますが、アップデートを行わなくてもセキュリティ上、動作上の問題が発生しないことを保障するものではありません。適宜公表される Windows のアップデート情報に対し、お客様にて適用の必要あり・なしをご判断いただき、必要なものについては実施いただく事をお勧めいたします。

3-2. 手動アップデート

自動アップデートを行わない設定のまま、手動アップデート方法としては、Microsoft が配布するアップデートのスタンド・アローン・インストーラーを入手し、インストールする方法と、Windows の設定パネルからアップデートを実行させる方法があります。

3-2-1. スタンド・アロン・インストーラーで手動アップデート

スタンド・アロン・インストーラーによるオフライン・アップデートを行う場合、あらかじめインストーラーを入手する必要があります。

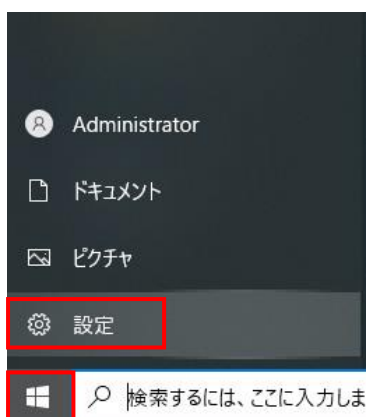
インストーラーの入手方法につきましては、マイクロソフト社サイト <https://www.catalog.update.microsoft.com/home.aspx> にて KB 番号を入力し、表示されるダウンロードリンクからダウンロードをお願いいたします。



3-2-2. オンラインで手動アップデート

オンライン手動アップデートを行う場合、以下の手順で実行します。

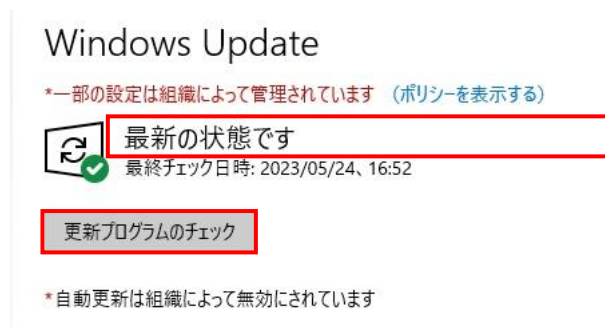
“スタートボタン” を左クリックして、[設定] を選択します。



[更新とセキュリティ]をクリックします。



更新状態レポートとして、“利用可能な更新プログラムはありません。今後も、最新の更新プログラムを毎日チェックします。”との表示がなされます。

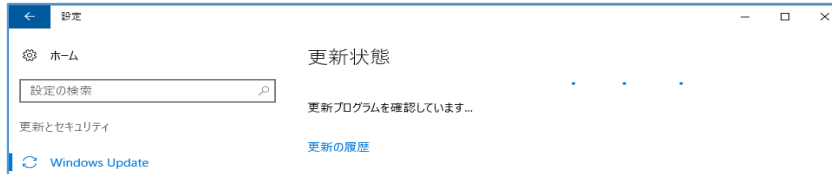


⚠️ 注意

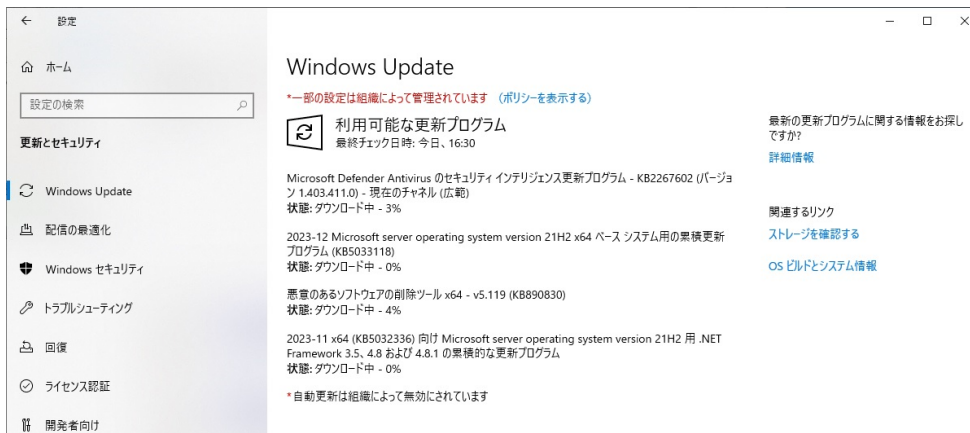
工場出荷設定で自動アップデートを行わない状態にしているため、インターネットに接続できる環境下にあっても、更新プログラムの有無を常時確認しておりません。

そのため、この表示は、記載状況が最新にあることを意味するものではありません。

[更新プログラムのチェック] ボタンを押し、更新プログラムの確認を行います。
この際、有効なインターネット接続環境が必要となります。



アップデートが見つかったらダウンロードとインストールを行います。



アップデート後に再起動が必要な場合、その旨の表示がされます。

上記の手動アップデートを行わせた後も、自動アップデートは有効になりません。

都度、同じ手順で手動アップデートを行ってください。

3-3. 自動アップデートを有効に変更

当社出荷の Windows Server IoT 2022 for Storage 搭載機種は、C:\%NTC%\Win_auto_update_config にある 2 つのレジストリ情報を使うことで、自動アップデートの無効化(工場出荷時設定)/有効化が行えます。

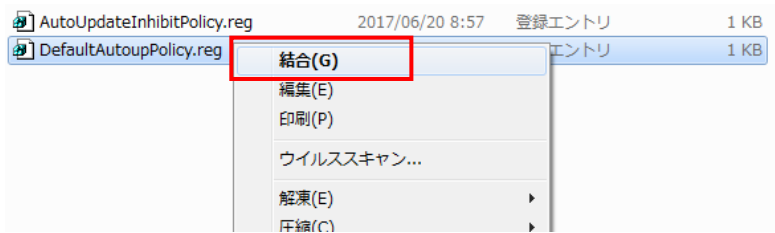
AutoUpdateInhibitPolicy.reg : Newtech 工場出荷時の自動アップデート無効設定ファイル

DefaultAutoupPolicy.reg : Microsoft デフォルトの自動アップデート有効設定ファイル

自動アップデートを有効化する場合、“DefaultAutoupPolicy.reg” を使用します。

レジストリ情報ファイルを選択し、右クリックでメニューを表示させ、[結合]を選択してください。

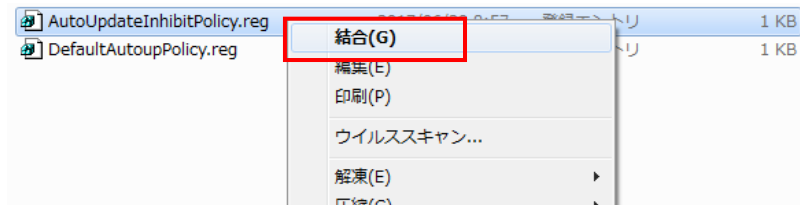
ここで状態設定の変更を反映するには、Windows の再起動が必要です。



3-4. 自動アップデートを無効に戻す

上記手順で自動アップデートを有効にした後、再度これを無効にしたい場合、

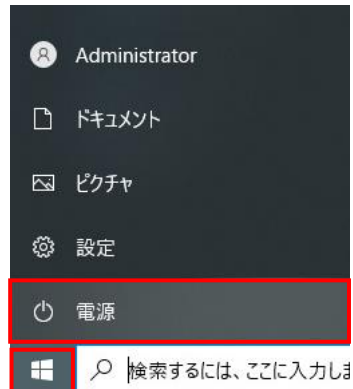
“AutoUpdateInhibitPolicy.reg” を結合し、Windows の再起動を行ってください。



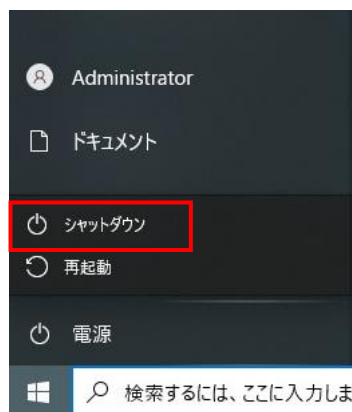
4. Windows Server IoT 2022 for Storage 操作/設定手順

4-1. OS のシャットダウン

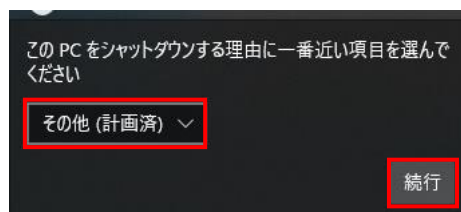
1. Windows へサインインが完了した後、画面左下のスタートボタンを左クリックします。
つづいて、電源のアイコンをクリックします。



2. [シャットダウン]を選択します。



3. 必要に応じてシャットダウンする理由を “▼” で選んで[続行]ボタンをクリックします。



以上で[OS のシャットダウン]は完了です。

4-2. ユーザーの作成

1. Windows へサインインが完了した後、下図の様に、サーバーマネージャーの“ダッシュボード”が開きます。



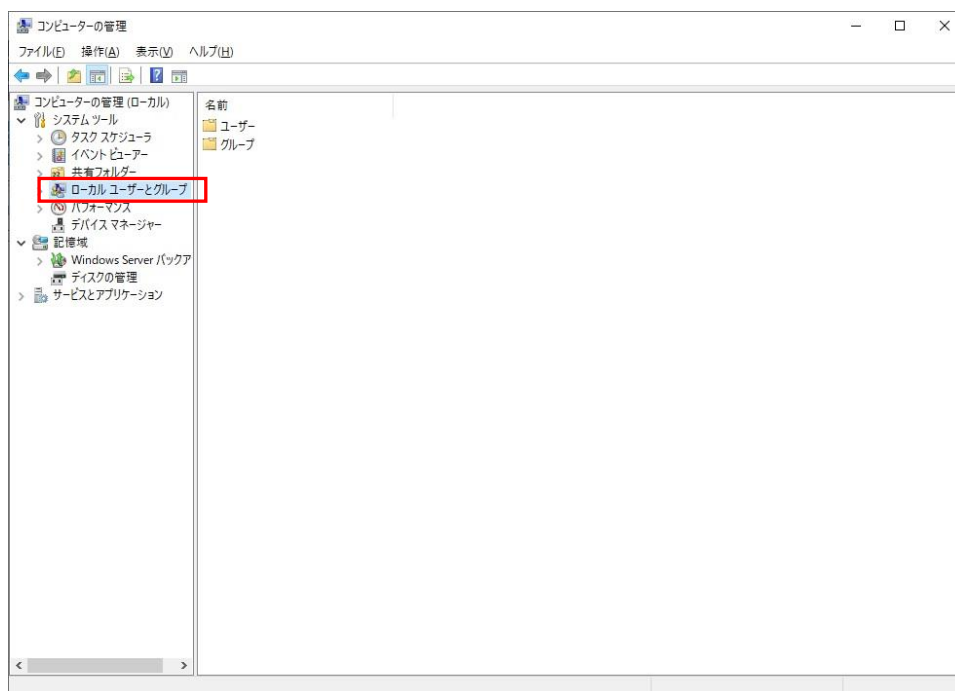
2. ダッシュボードを閉じた後、再度開きたい場合は、左下のスタートアイコンからメニューを表示させ、サーバーマネージャーアイコンをクリックします。



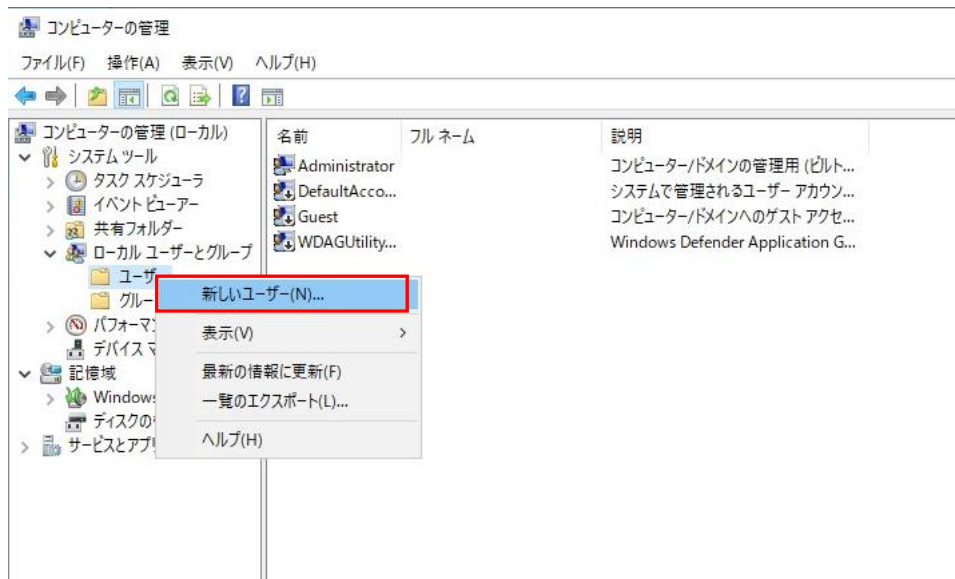
2. [ダッシュボード]メニューから[ツール]→[コンピューターの管理]をクリックします。



3. [ローカルユーザーとグループ]を展開します。



4. [ユーザー]を右クリックし、[新しいユーザー]を選択します。



5. [ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[作成]ボタンをクリックします。必要に応じて、その他の項目も設定してください。

新しいユーザー

ユーザー名(U):

フルネーム(F):

説明(D):

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要(M)

ユーザーはパスワードを変更できない(S)

パスワードを無期限にする(W)

アカウントを無効にする(B)

ヘルプ(H) 作成(E) 閉じる(O)

以上で、[ユーザーの作成]は完了です。

4-3. グループの作成

1. Windows へサインインが完了した後、下図の様に、サーバーマネージャーの[ダッシュボード]が開きます。

サーバー マネージャー

サーバー マネージャー > ダッシュボード

サーバー マネージャーへようこそ

- このローカル サーバーの構成
- 役割と機能の追加
- 管理するサーバーの追加
- サーバー グループの作成
- このサーバーをクラウド サービスに接続する

役割とサーバー グループ

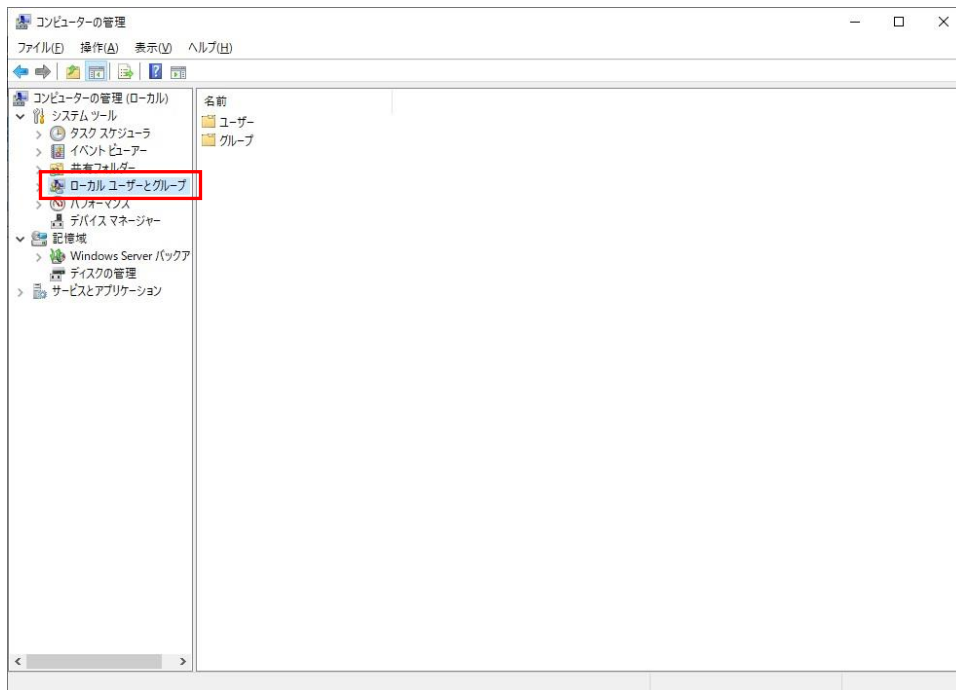
役割の数: 2 | サーバー グループの数: 1 | サーバーの合計数: 1

役割	サーバー グループの数
IIS	1
ファイル サービスと記憶域 サービス	1
ローカル サーバー	1
すべてのサーバー	1

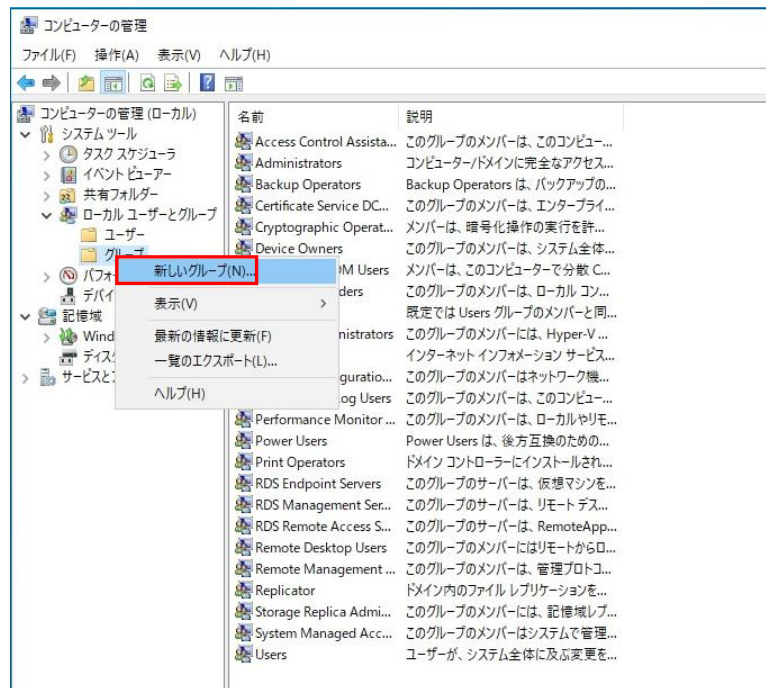
2. [ダッシュボード]メニューから[ツール]→[コンピューターの管理]をクリックします。



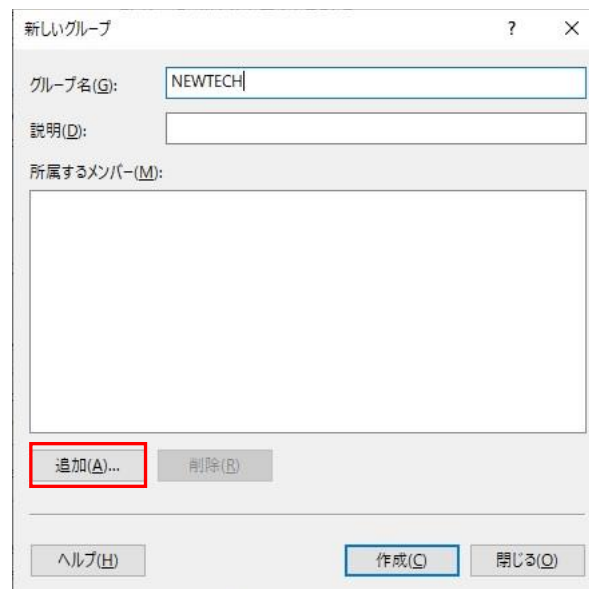
3. [ローカルユーザーとグループ]を展開します。



4. [グループ]を右クリックし、[新しいグループ]を選択します。



5. [グループ名]を入力し、[追加]ボタンを選択します。
(必要に応じ、その他の項目も設定してください。)



6. [詳細設定]ボタンをクリックします。



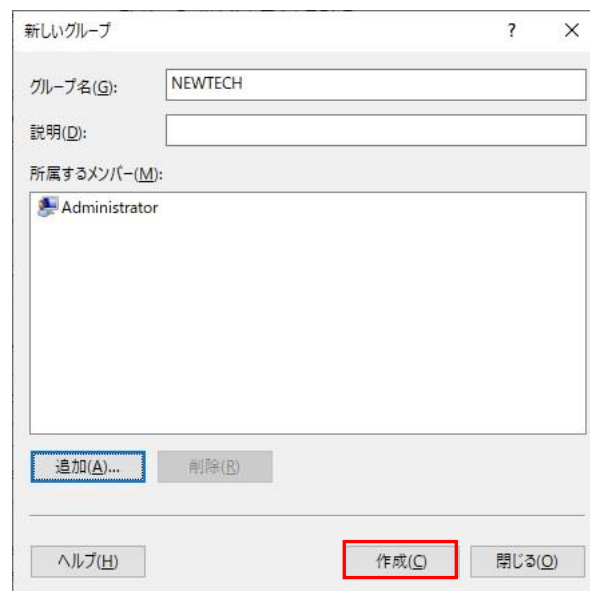
7. [検索]ボタンをクリックし、[検索結果]欄からグループに登録するユーザーを選択して[OK]ボタンをクリックします。



8. 選択したユーザーが登録されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



9. [所属するメンバー]欄にユーザーが登録されていることを確認し、[作成]ボタンをクリックします。



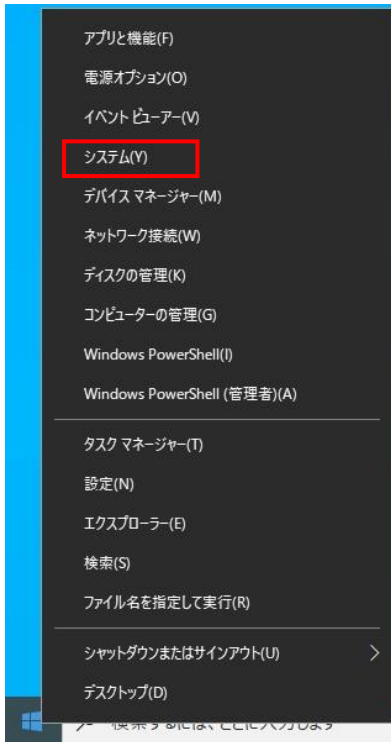
以上で[グループの作成]は完了です。

4-4. アクティブディレクトリ環境への参加

製品をアクティブディレクトリ環境へ参加させる手順を以下に記します。アクティブディレクトリ環境で使用しない場合は本手順を行う必要はありません。

注意：アクティブディレクトリへ参加するために、名前解決可能な DNS サーバーが存在する必要があります。

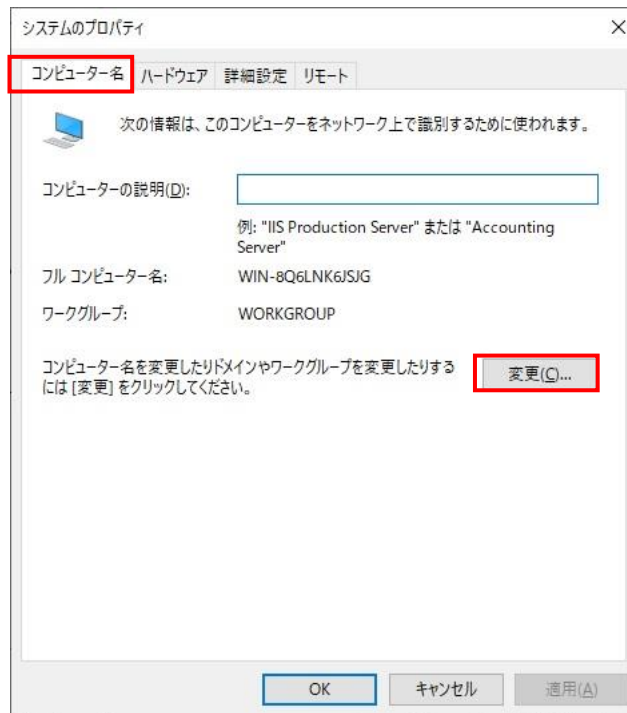
1. Windows へサインイン後、画面左下のスタートメニューを右クリックして、[システム]を選択します。



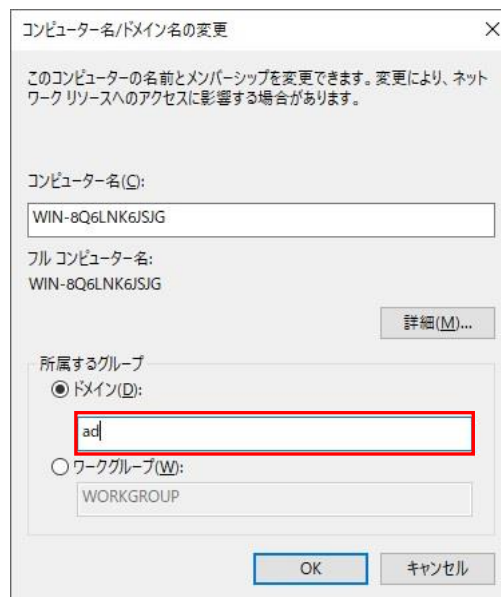
2. [システムの詳細設定]をクリックします。



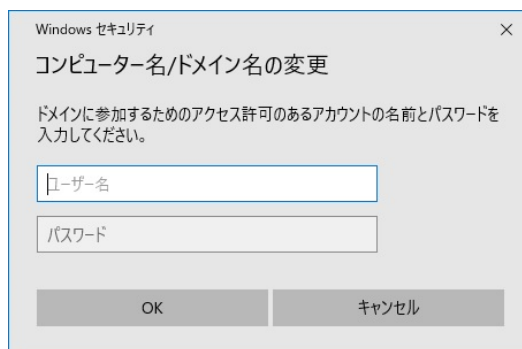
3. [システムのプロパティ] → [コンピューター名]タブから、[変更]を選択します。



4. [ドメイン]を選択し、ドメイン名を入力して、[OK]ボタンをクリックします。



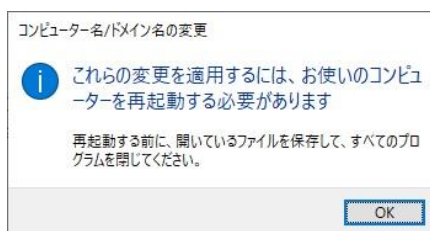
5. 画面は、ドメイン名[ad]に参加する例です。ドメインコントローラにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。



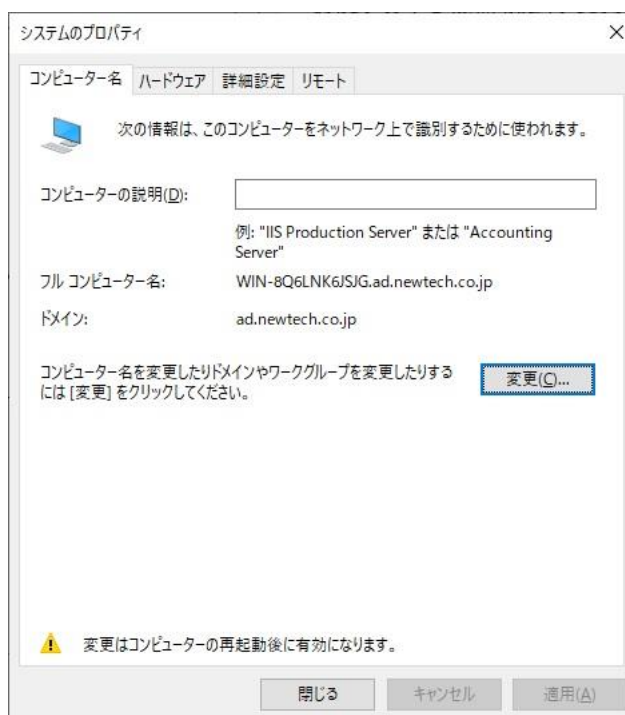
6. 下記のウィンドウで、[OK] ボタンをクリックします。



7. 以下の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



8. 以下の画面の[閉じる] ボタンをクリックします。



9. [今すぐ再起動する]ボタンをクリックし、再起動させます。再起動後、アクティブディレクトリへのサインイン（ログオン）が可能になります。



以上で、[アクティブディレクトリへの参加]は完了です。

4-5. 共有フォルダーの作成

1. Windows へサインインが完了した後、下図のように、サーバーマネージャーの[ダッシュボード]が開き、左の[ファイルサービスと記憶域サービス]を選択します。

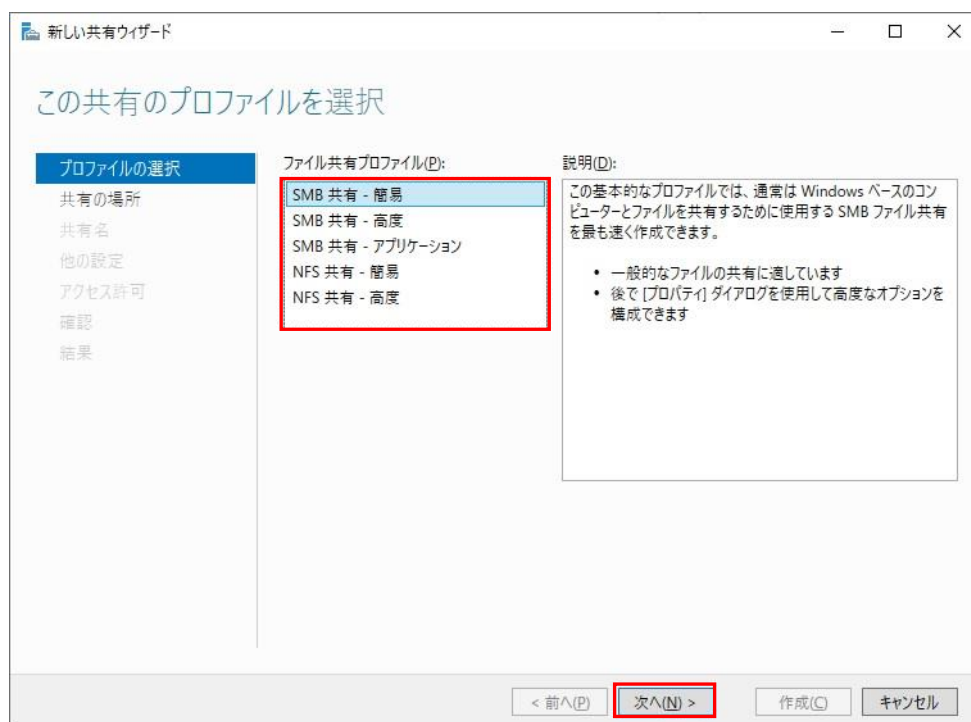


“ファイルサービスと記憶域サービス”で、[共有]の項目にある[ファイル共有を作成するには、新しい共有ウィザードを実行してください。]をクリックします。



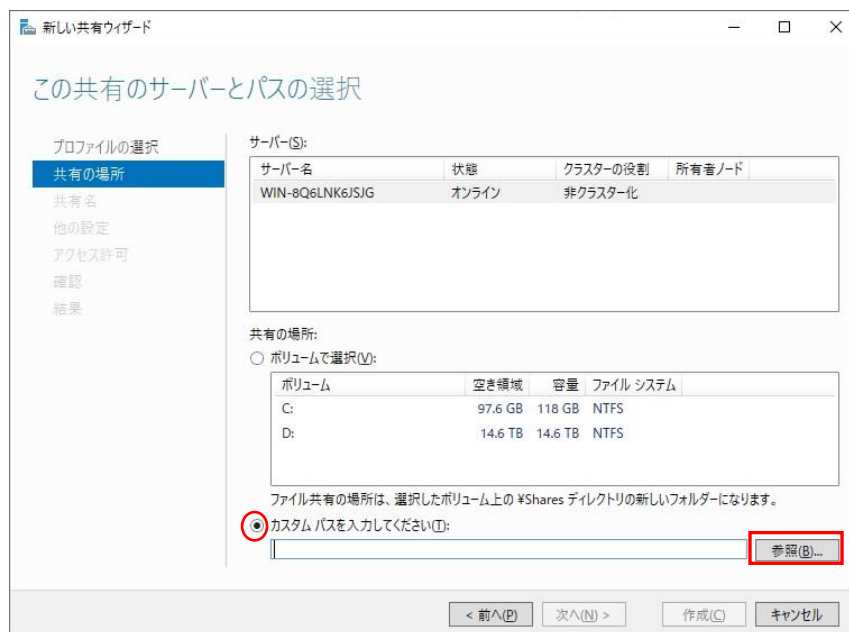
右上の **タスク** ボタンを押して、新しい共有ウィザードを起動することも可能です

2. [新しい共有ウィザード]ウィンドウが起動しますので、[ファイル共有プロファイル]のオプションを選んで、[次へ]ボタンをクリックします。

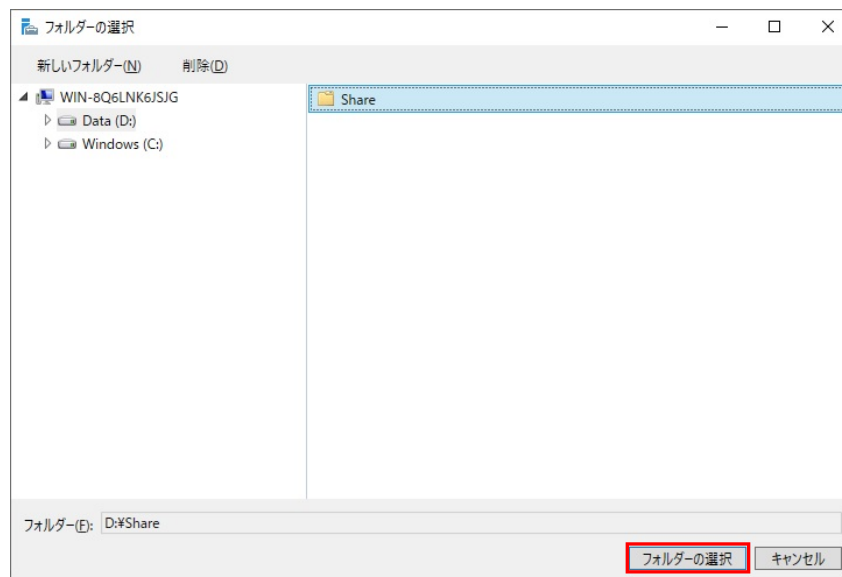


ここでは、[SMB 共有 - 簡易]を選んでいきます

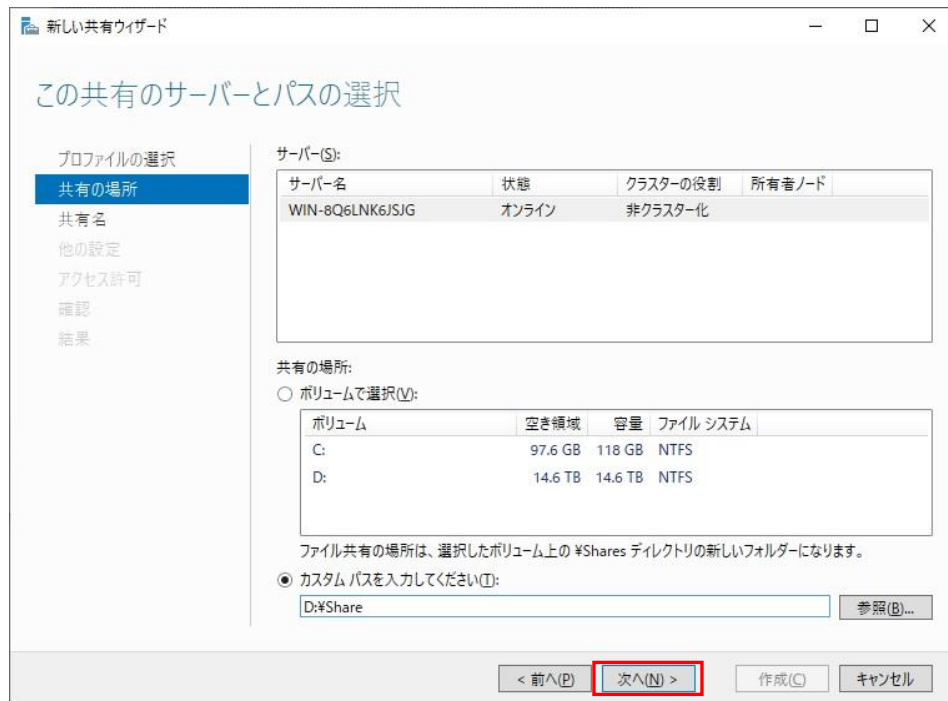
3. 設定する共有のサーバーとパスの選択を行います。[カスタム パスを入力してください]を選択し、[参照]ボタンをクリックします。



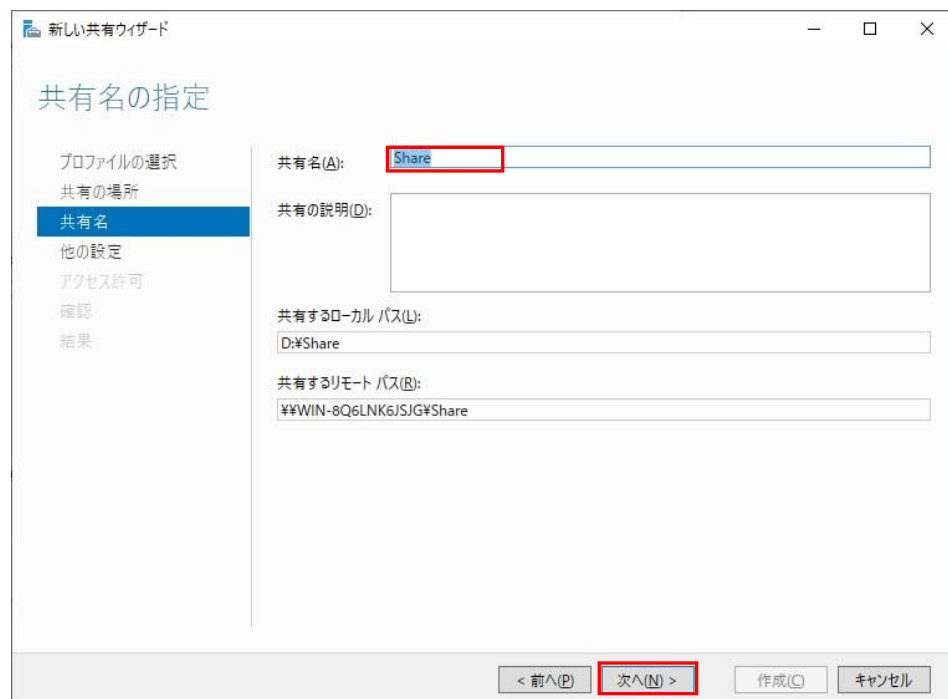
4. [フォルダーの選択]にて、“ローカルディスク (D:)” を選択します。画面左上部の[新しいフォルダーを作成]ボタンをクリックし、フォルダーを作成して[フォルダーの選択]ボタンをクリックします。



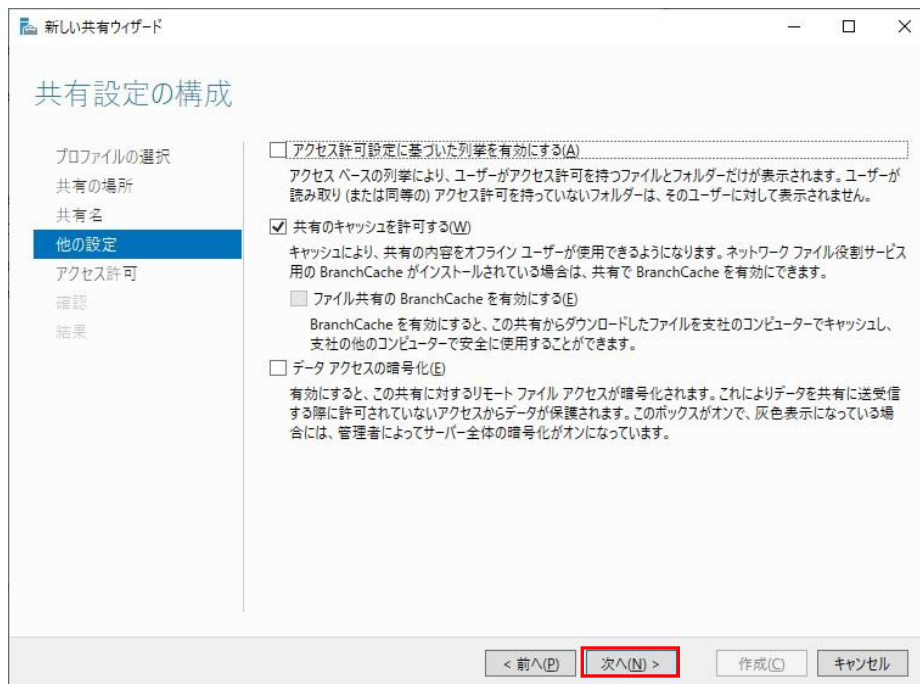
5. 項番 3 の画面に戻ります。フォルダーパスを確認後、[次へ]ボタンをクリックします。



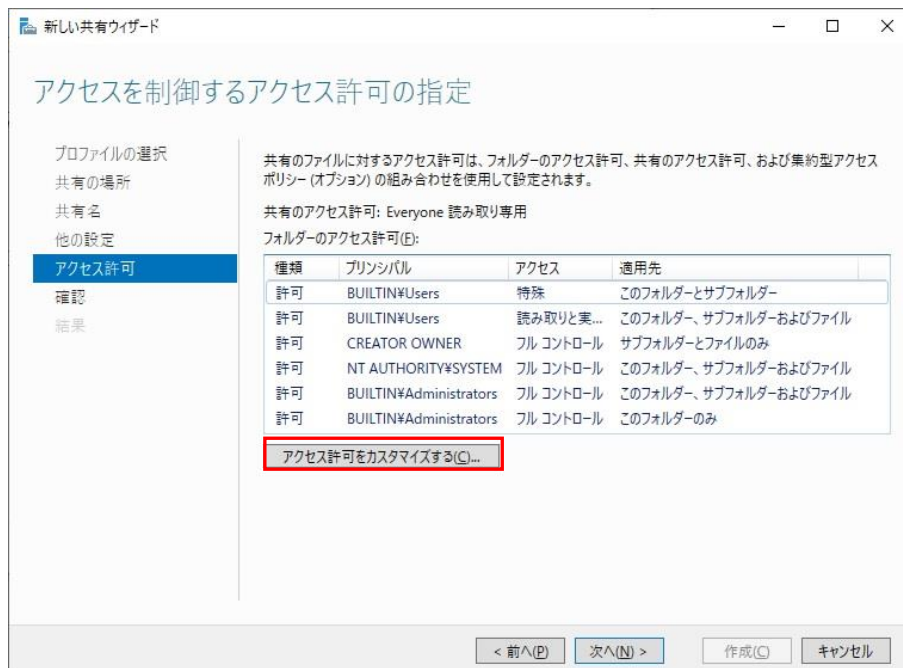
6. [共有名]を入力し[次へ]ボタンをクリックします。



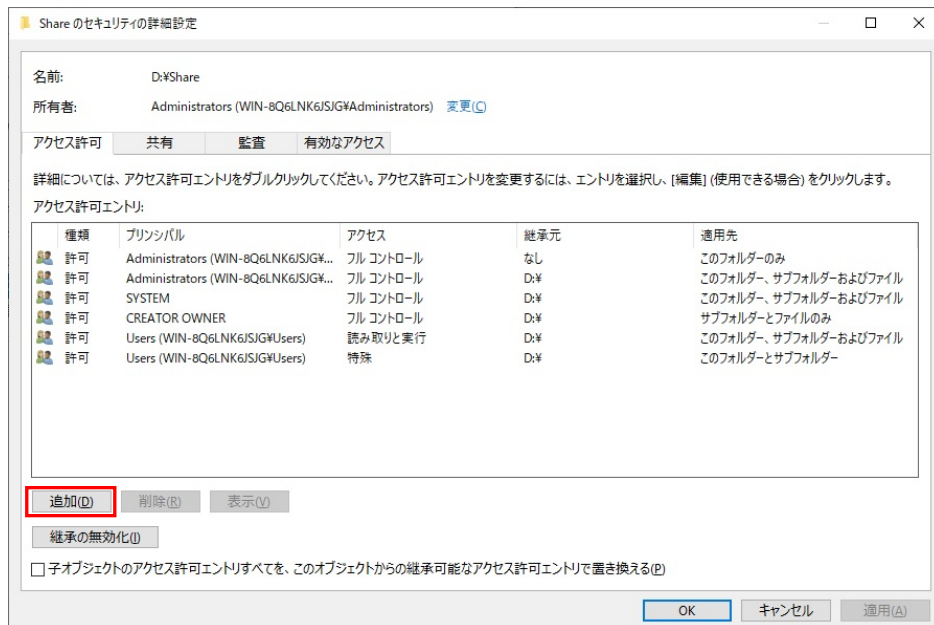
7. 共有の他の設定メニューに移りますので、必要な機能にチェックを入れて[次へ]ボタンをクリックします。



8. 共有に対してのアクセス許可の設定を実施します。[アクセス許可をカスタマイズする]をクリックします。



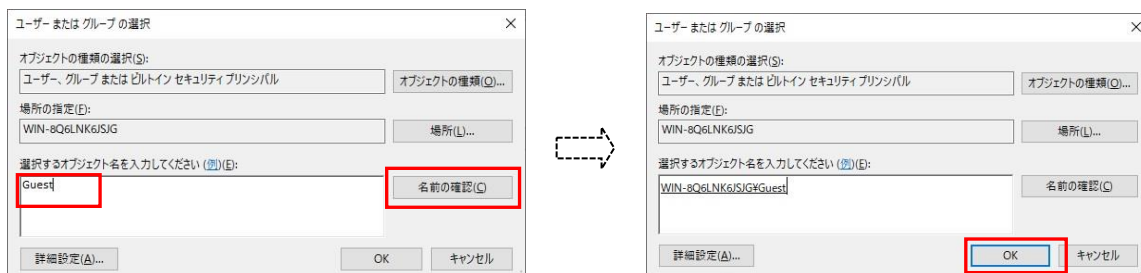
9. 共有に対してアクセス可能なユーザーを登録します。ここでは、[追加] ボタンをクリックします。



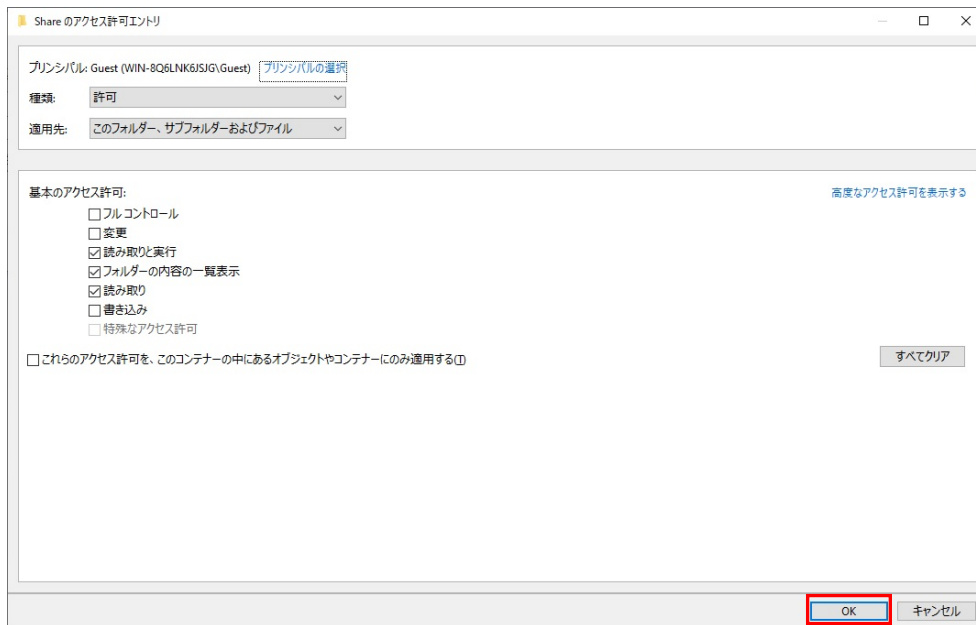
[プリンシパルの選択] をクリックします。



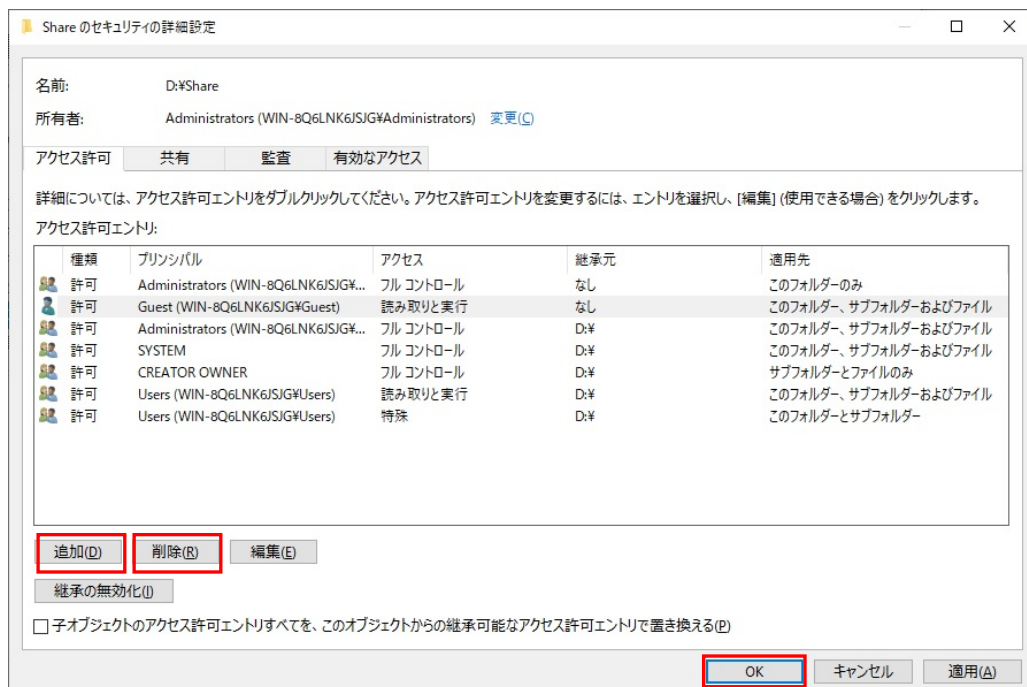
10. 該当ボリュームに対するアクセス許可を追加するユーザー（グループ）名を入力し、[名前を確認] ボタンをクリックします。有効なオブジェクトが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



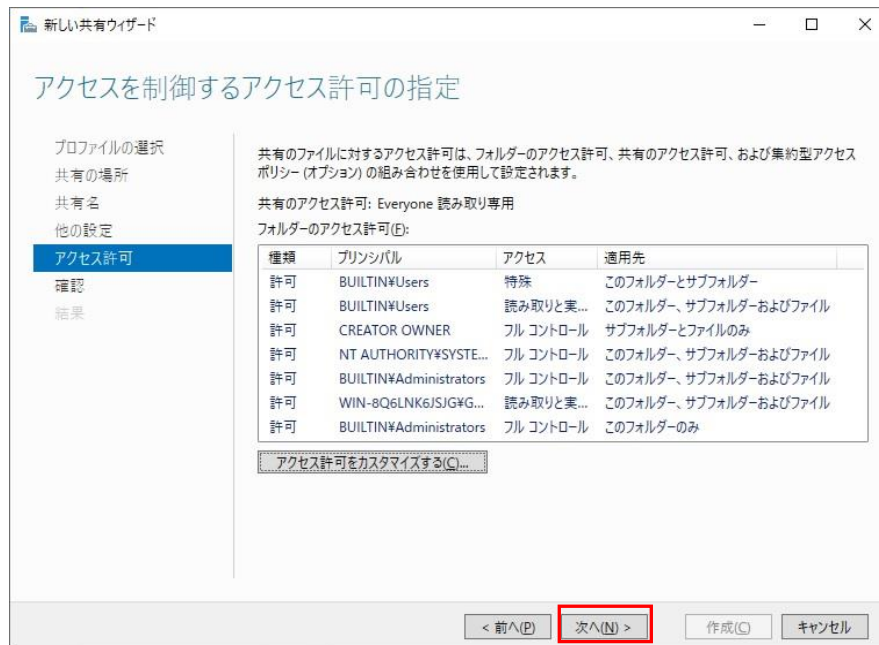
11. 追加したユーザー（グループ）に対してアクセス権を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



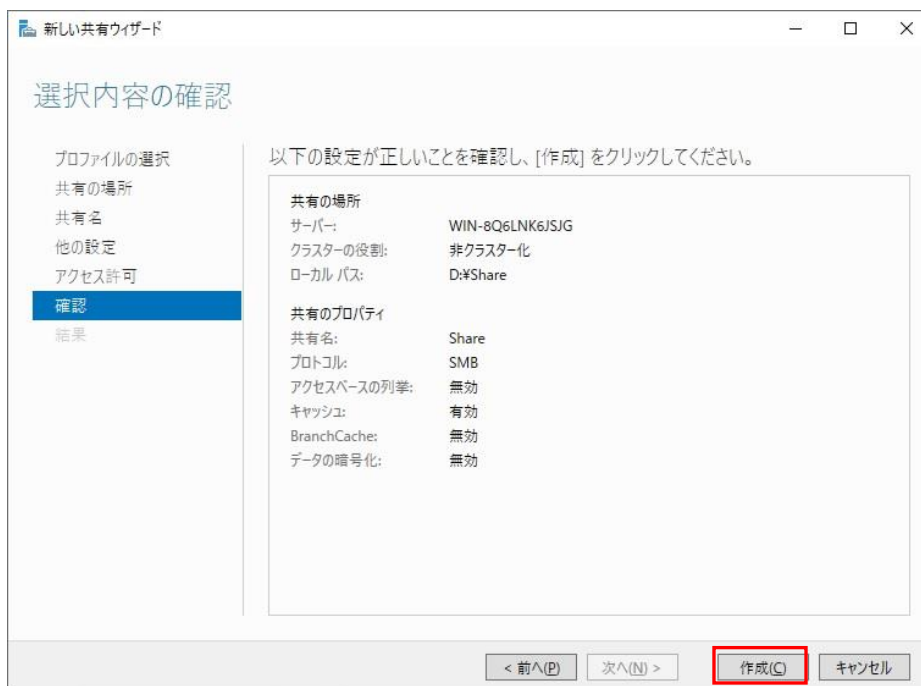
12. 共有に対してのアクセス権の設定が必要な場合には、[共有] タブをクリックし、[追加] もしくは [編集] ボタン等をクリックして調整してください。前ページの画面と同じ手順になります。



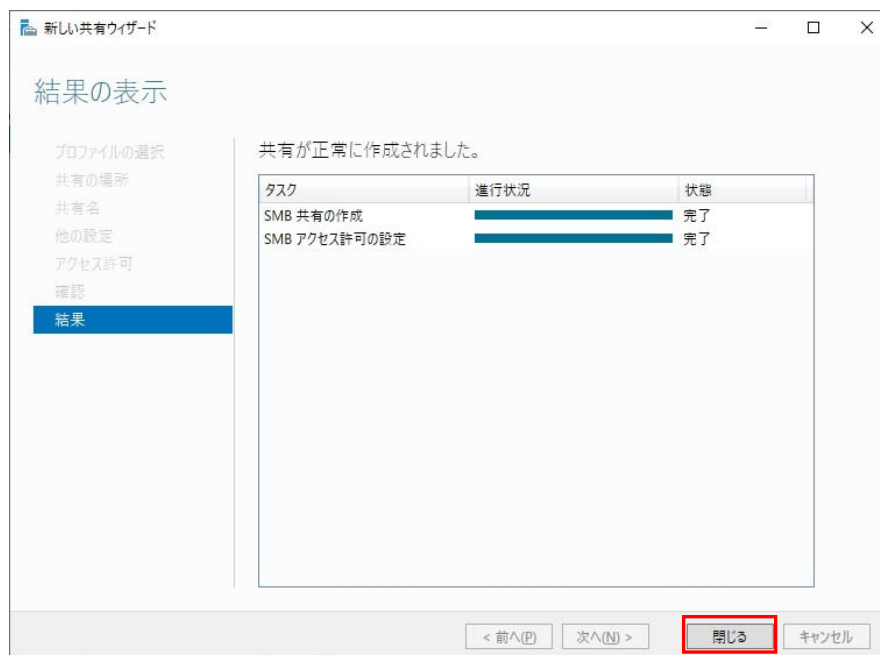
13. [次へ]ボタンをクリックします。



14. 設定内容に問題ないかを確認し、[作成]ボタンをクリックします。



15. [閉じる]ボタンをクリックしてください。

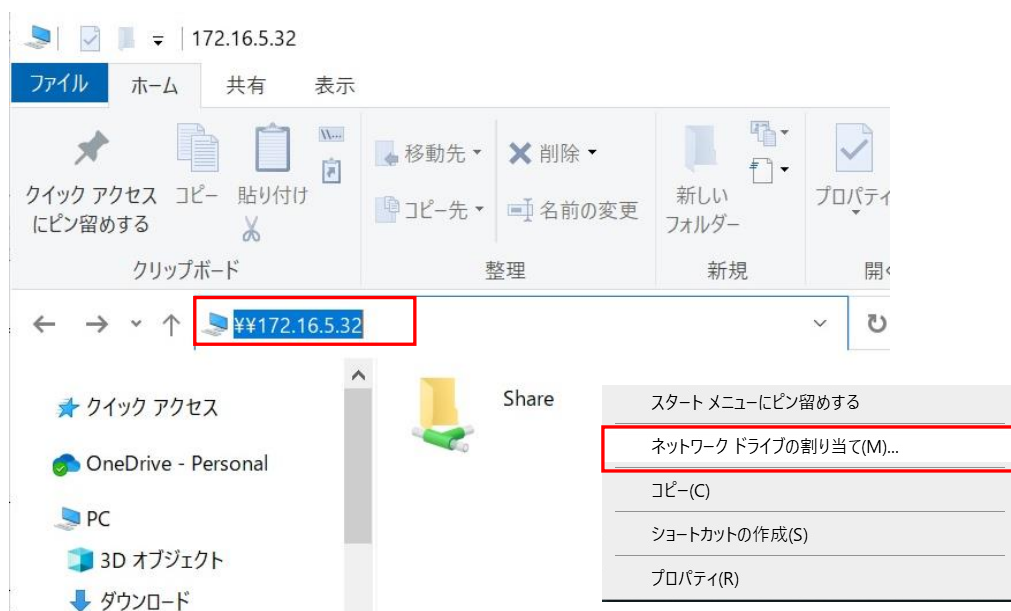


以上で、[共有フォルダーの作成]は完了です。

4-6. ネットワークドライブの割り当て

製品をネットワーク上から参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。

1. ネットワークに接続されているパソコンから、エクスプローラーのアドレス欄に、製品の IP アドレスを入力して(¥¥製品 IP)、製品の共有フォルダーを表示後、右クリックして表示されたメニューの[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。



2. ネットワークドライブを割り当てます。

×

← ネットワークドライブの割り当て

割り当てるネットワーク フォルダを選択してください

接続するフォルダと使用するドライブ文字を指定してください:

ドライブ(D):

フォルダ(Q):

例: ¥¥server¥share

サインイン時に再接続する(R)

別の資格情報を使用して接続する(C)

[ドキュメントと画像の保存に使用できる Web サイトに接続します](#)

完了(E)

キャンセル

- ① ドライブで本製品に割り当てるドライブを選択します。
- ② [サインイン時に再接続する]にチェックを入れます。
- ③ [完了]ボタンをクリックします。

[コンピューター]を開き、割り当てられたドライブが認識されていることを確認ください。

以上で、[ネットワークドライブの割り当て]は完了です。

4-7. 日時の設定

1. 画面右下のタスクトレイに表示されている時刻を右クリックし、[日付と時刻の調整]をクリックします。初期値は「時刻を自動的に設定する」(NTP)になっています。インターネットに到達できる環境であれば自動設定が可能です。



2. 手動設定する場合は[時刻を自動的に設定する]をオフにします。



※Domainに参加する場合、[時刻を自動的に設定する]を変更できないことがあります。

3. 自動設定をオフにすると、“日付と時刻を手動で設定する”の[変更]ボタンが有効になります、[変更]ボタンをクリックして、各プルダウンメニューから現在の日付と時刻を設定して、[変更]ボタンをクリックします。



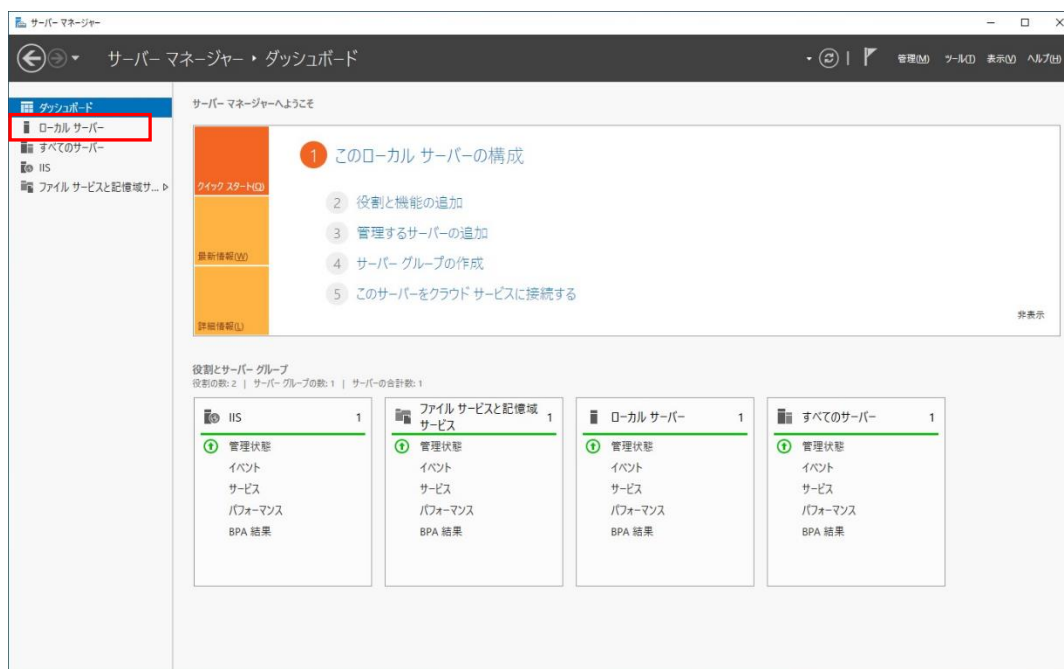
以上で、[日時の設定]は完了です。

4-8. NICのチームング設定

Windows Server IoT 2022 for Storage では OS による NIC のチームングがサポートされます。OS でサポートする事により、マルチベンダーの NIC でチームングが可能です。

4-8-1. チームングの設定

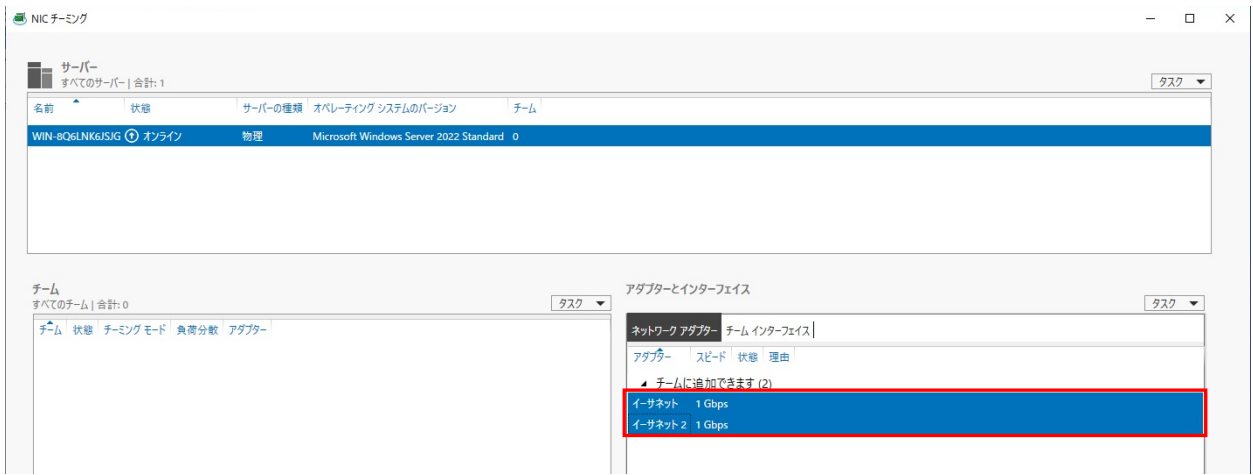
1. Windows へサインインが完了した後、下図の様に、サーバーマネージャーの[ダッシュボード]が開きます。そこで、[ローカル サーバー]をクリックします。



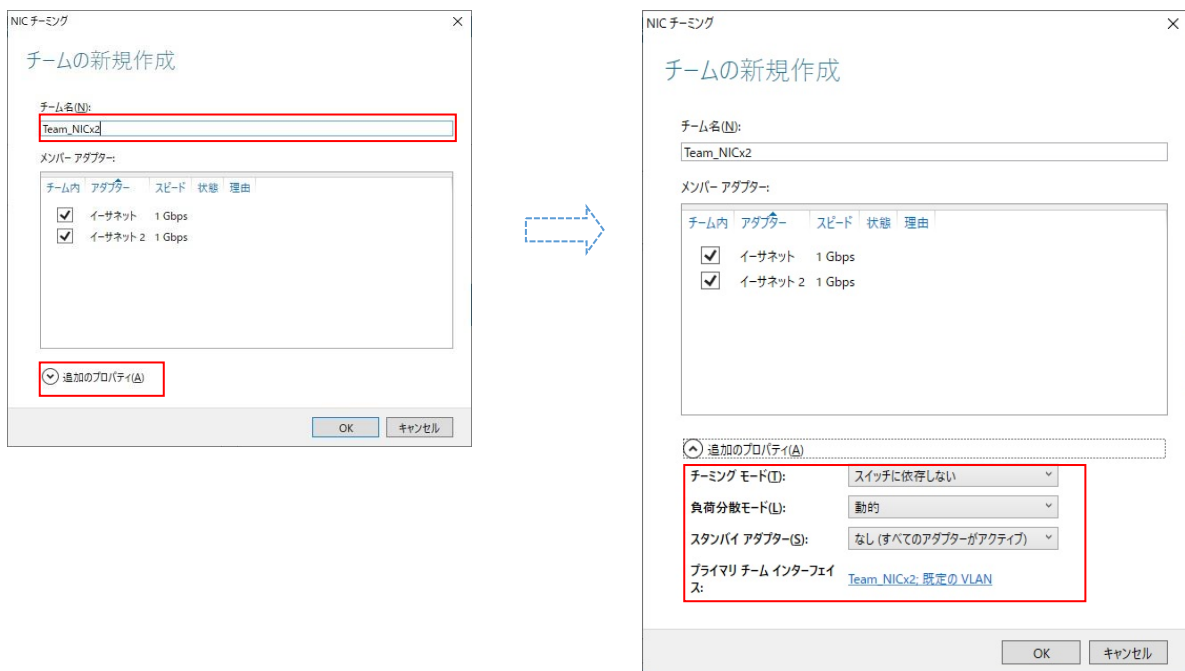
2. [プロパティ]欄にある、[NIC チェーミング]項目が[無効]になっていますので、その[無効]をクリックします。



3. [NIC チェーミング]のメニューが表示されます。ここで該当のNICを【Ctrl】+【マウスの左クリック】で選択し、右クリックし、[新しいチームに追加]を選択します。

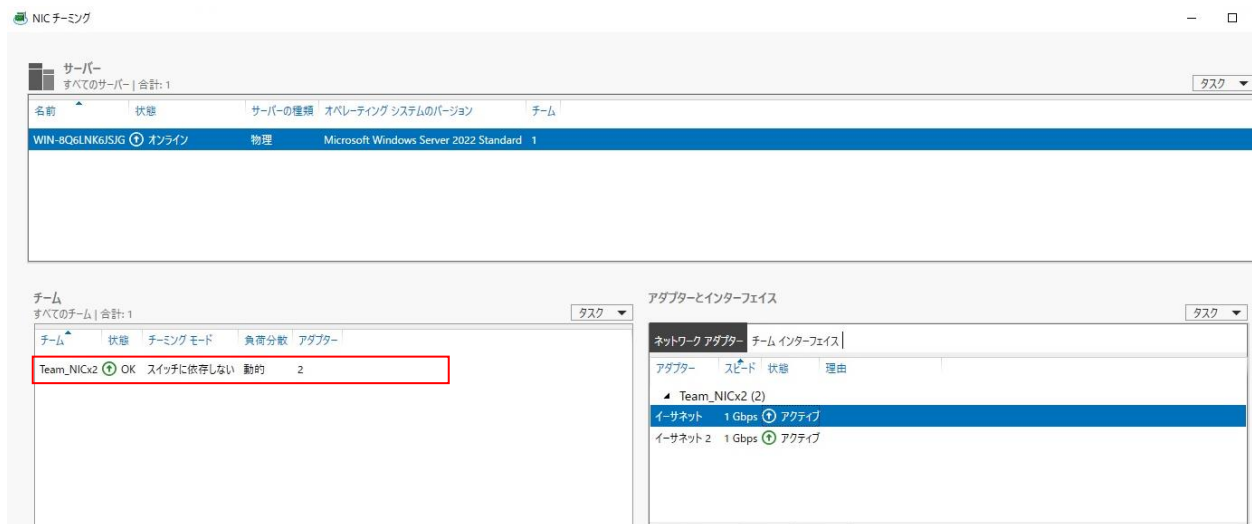


4. 任意の名前を[チーム名]に入力し、[OK]ボタンをクリックします。



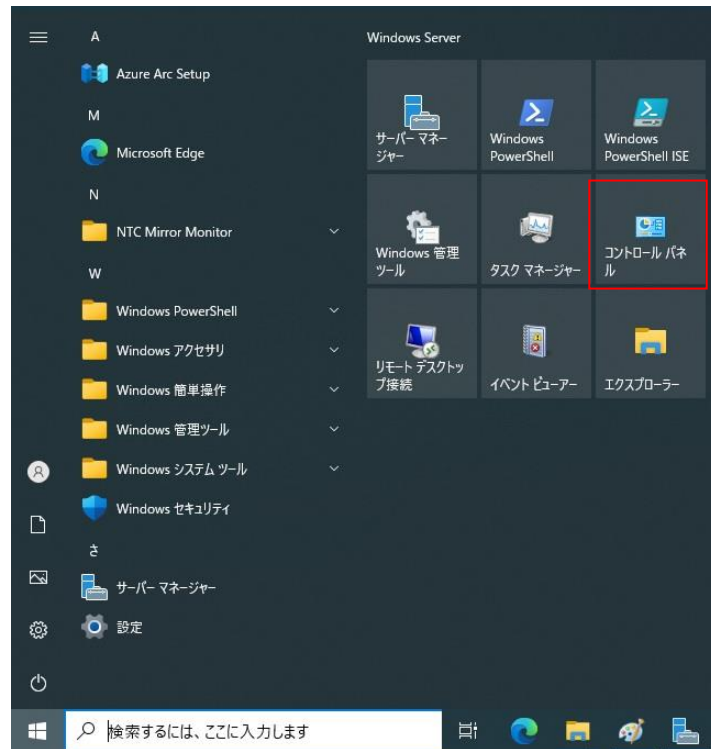
追加プロパティの”▼”をクリックすることにより、チーミングについての詳細な設定が可能になります。チーミングの詳細なオプションについては、マイクロソフト社のホームページをご参照ください。

5. 以下の様に表示が変更されましたら成功です。続いて、NIC チームの IP アドレスの設定に移ります。チームの状態が “OK” に反映するには数分かかることがあります。



4-8-2. NIC チームの IP アドレスの設定

1. Windows へサインイン後、マウスで画面左下の Windows メニューを開き、[コントロールパネル]を起動します。



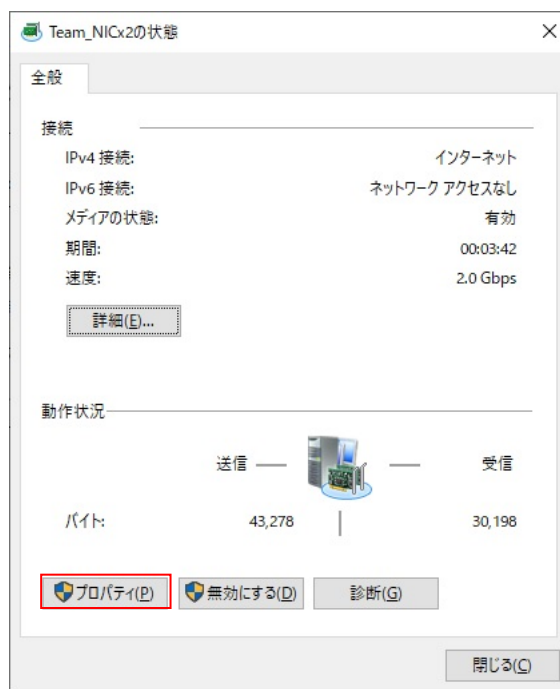
2. [ネットワークとインターネット] の [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリックします。



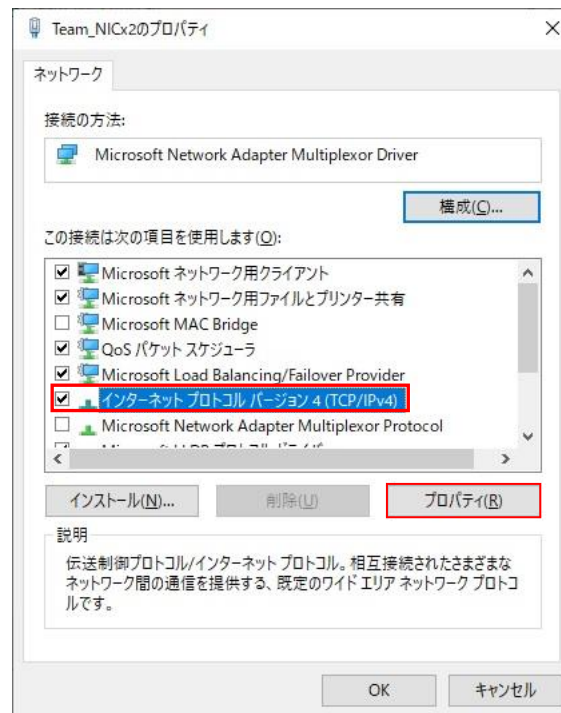
3. [アクティブなネットワークの表示]欄に、先ほど作成したチームング名（ここでは” Team_NICx2”）が表示されますので、そのチームング名をクリックします。



4. [プロパティ]ボタンをクリックします。



5. [インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



IPv6 を設定することも可能です。

6. 本製品を接続するネットワーク環境に適した IP アドレスを設定し、[OK]ボタンをクリックします。ここでは IP アドレスを自動取得する設定を記しています。

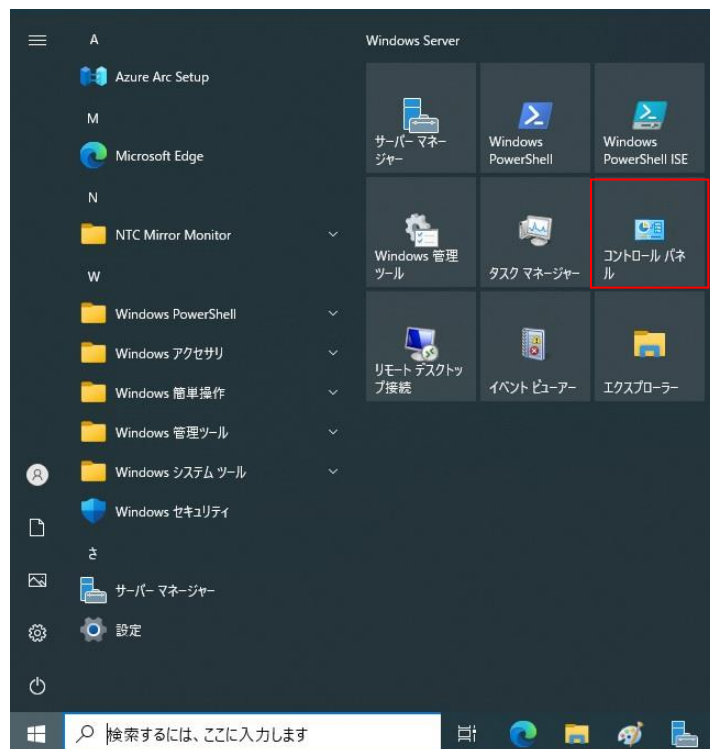


以上で、[NICのチーミング設定]は完了です。

4-9. パスワードの変更

管理者パスワードは、セキュリティ保護の観点から定期的に変更することを推奨します。

1. Windows へサインイン後、マウスで画面左下の Windows メニューを開き、コントロールパネルを起動します。



2. [コントロールパネル]で、[ユーザーアカウント]の[アカウントの種類の変更]をクリックします。



3. [アカウントの管理]にて、[Administrator]をクリックします。



4. [アカウントの変更]にて、[パスワードの変更]をクリックします。



5. 各項目を下記の様に入力し、[パスワードの変更]ボタンをクリックします。

Administrator のパスワードの変更

Administrator
ローカル アカウント
Administrator
パスワード保護

現在のパスワード
新しいパスワード
新しいパスワードの確認

パスワードに大文字が含まれる場合は、毎回同じように入力する必要があります。

パスワードのヒントの入力

パスワードのヒントはこのコンピューターを使用するすべての人が見ることができます。

パスワードの変更 キャンセル

- 現在のパスワード : 変更するパスワード
- 新しいパスワード : 任意のパスワード
- 新しいパスワードの確認 : “新しいパスワード”に入力した任意のパスワード
- パスワードのヒントの入力 : パスワードを思い出すための単語や語句を入力します。
入力は任意のため、フィールドを空欄にすることもできます。

以上で、[パスワードの変更]は完了です。

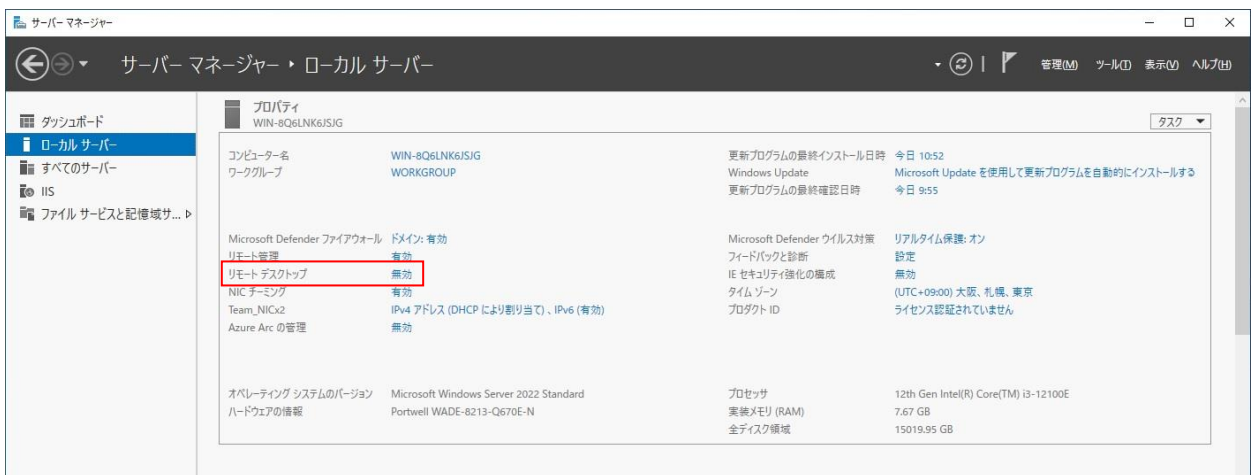
5. リモートデスクトップ設定

出荷時に、NAS サーバー側にリモートデスクトップが有効に設定されています。無効に設定される場合、下記の手順で有効に設定できます。

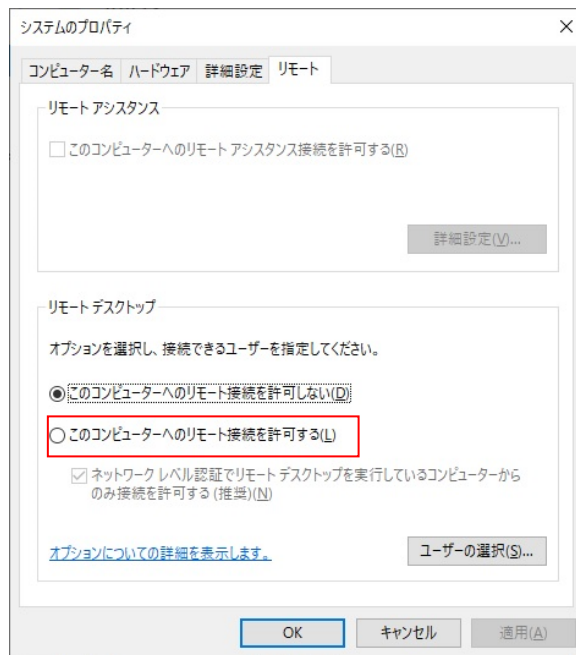
注意： リモートデスクトップクライアントからの同時接続は最大 2 台です。
1 ユーザーあたり 1 セッションとなります。

5-1. サーバー側の設定

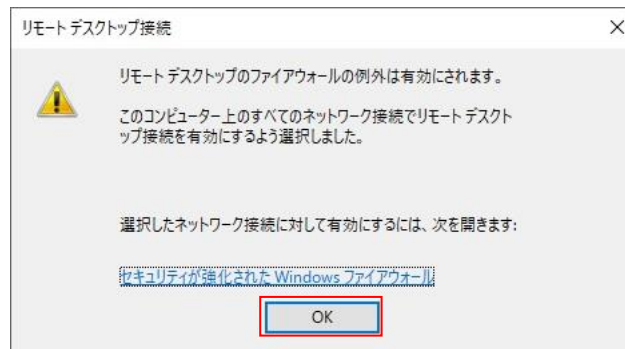
1. サーバーマネージャー画面から、[ローカルサーバー] をクリックします。リモートデスクトップの [有効/無効] のハイパーリンクをクリックします。



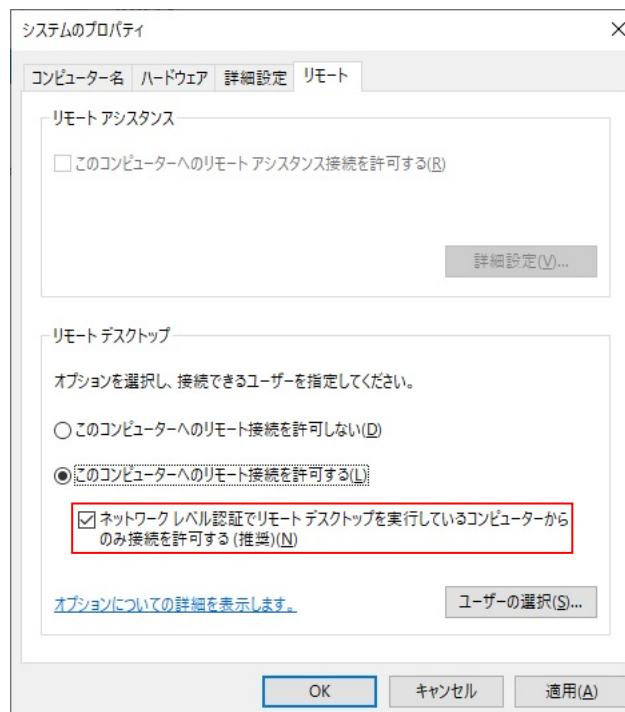
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されます。リモートタブのリモートデスクトップセクションから、[このコンピューターへのリモート接続を許可する]を選択します。



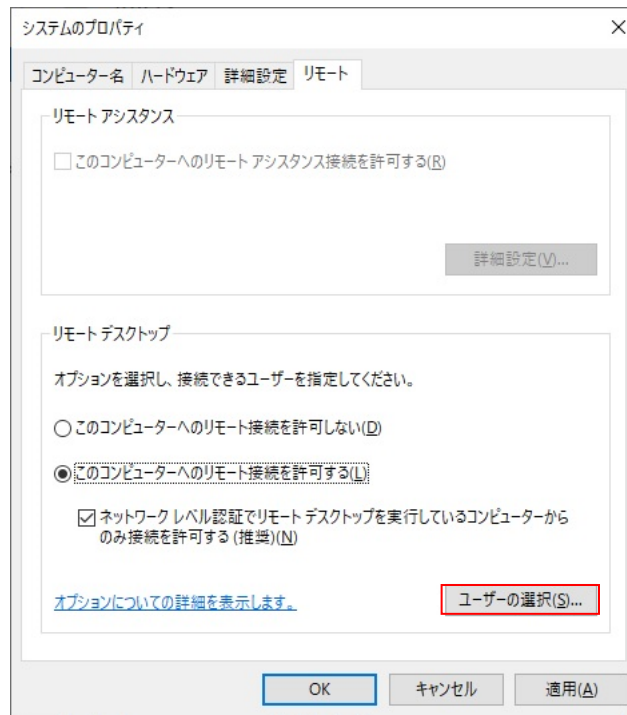
ファイアウォール例外の有効化警告で **[OK]** をクリックし、進めます。



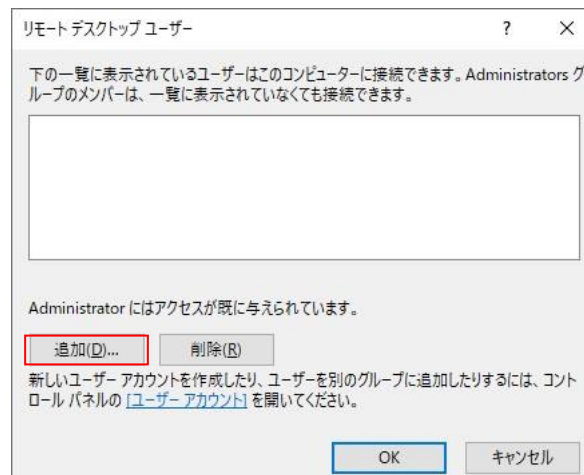
接続元のコンピューターがネットワークレベル認証機能を有している場合は**[ネットワークレベル認証でリモートデスクトップを実行しているコンピューターからのみ接続を許可する]**にチェックを入れてください。



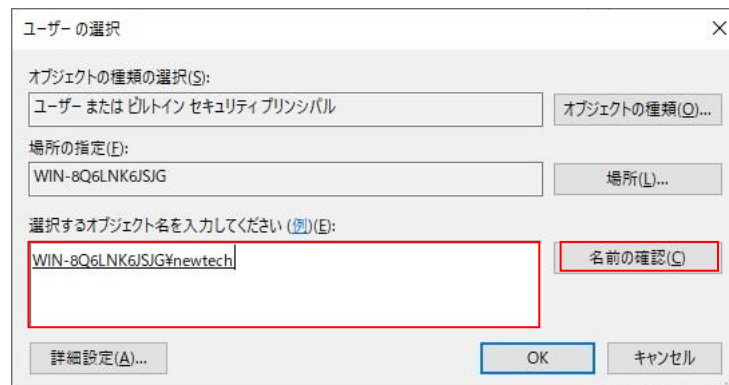
3. [ユーザーの選択] ボタンをクリックすると[リモートデスクトップ ユーザー]画面が表示されます。



[追加]または[削除] ボタンをクリックします。



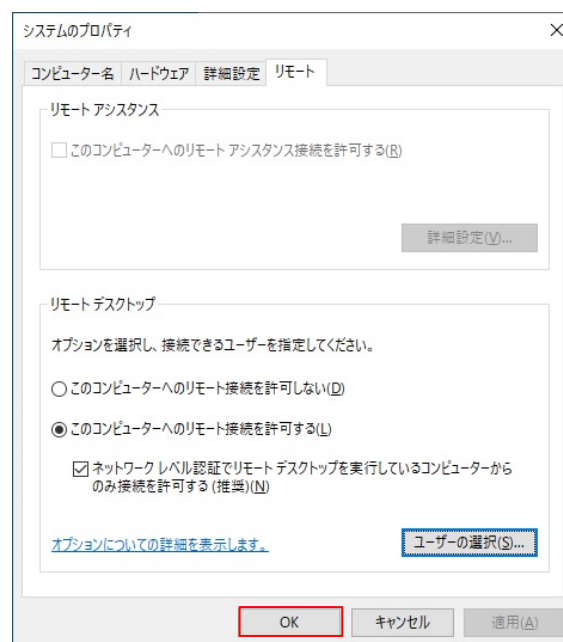
アクセス権限を付与するユーザー名を入力して、[名前の確認]をクリックします。



ユーザー名を確認したら、[OK]をクリックします。

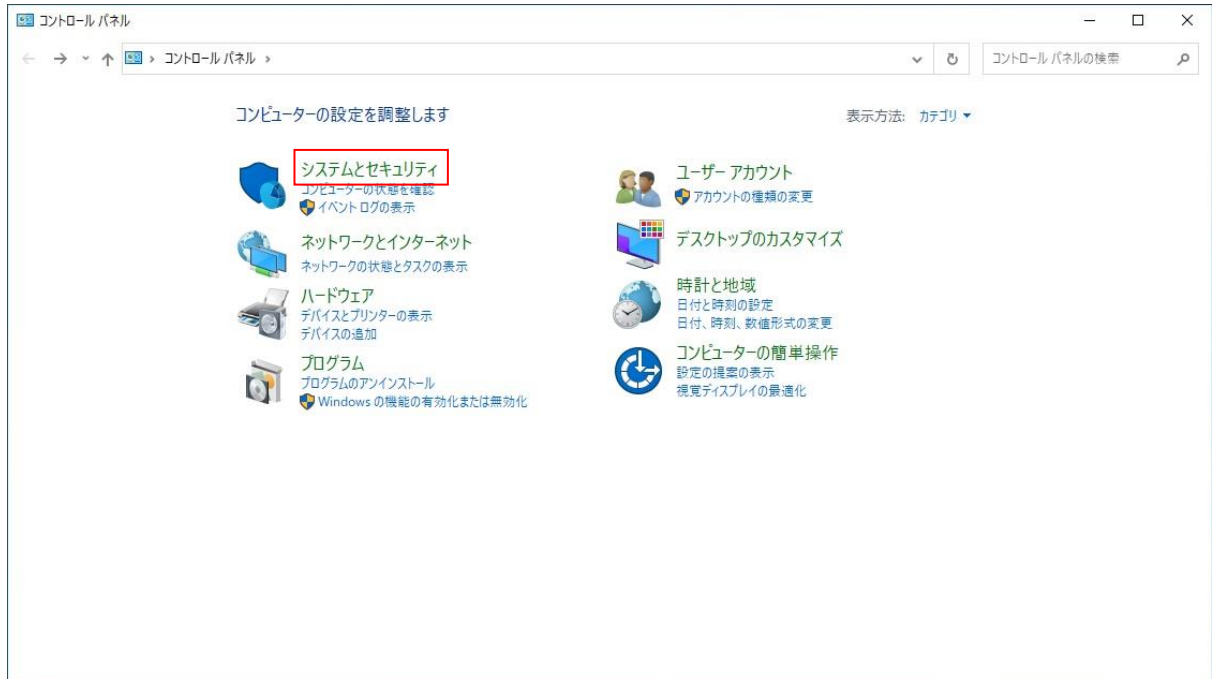


4. [OK]をクリックして、画面を閉じます。次の「ファイアウォール設定の確認」に進んでください。

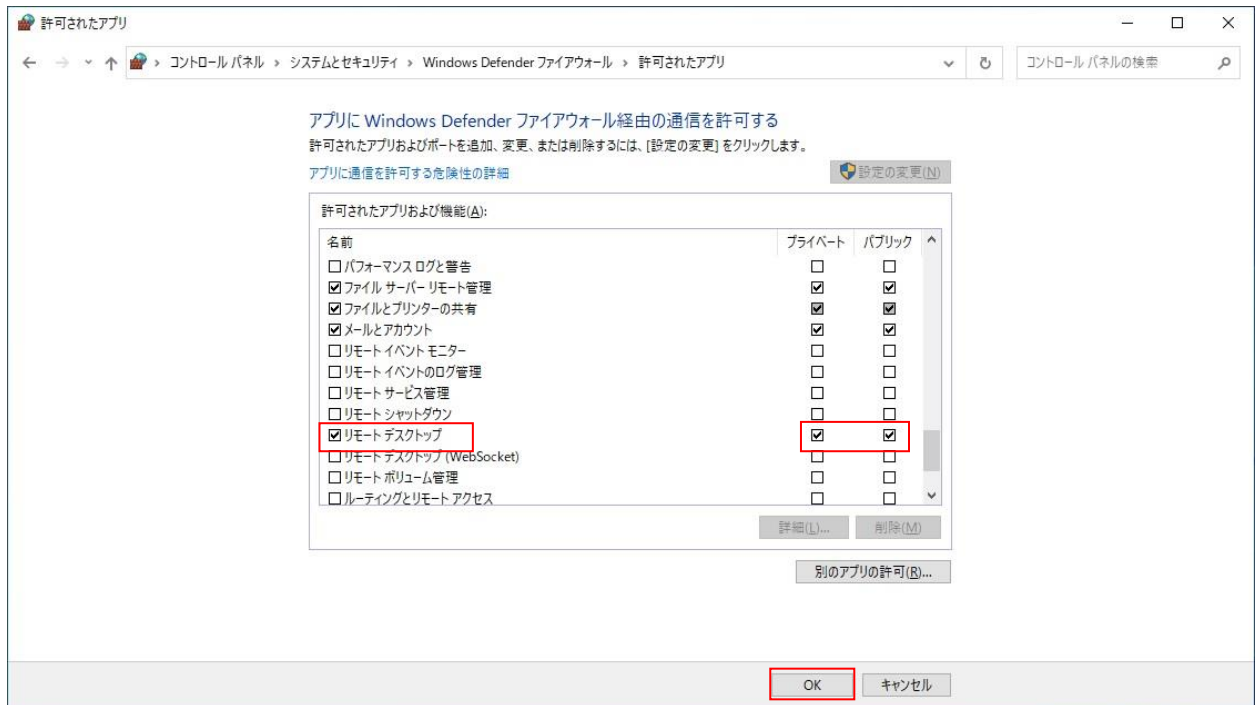


5. ファイアウォール設定の確認

[コントロールパネル]-[システムとセキュリティ]-[Windows Defender ファイアウォール]の [Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可] を選択します。



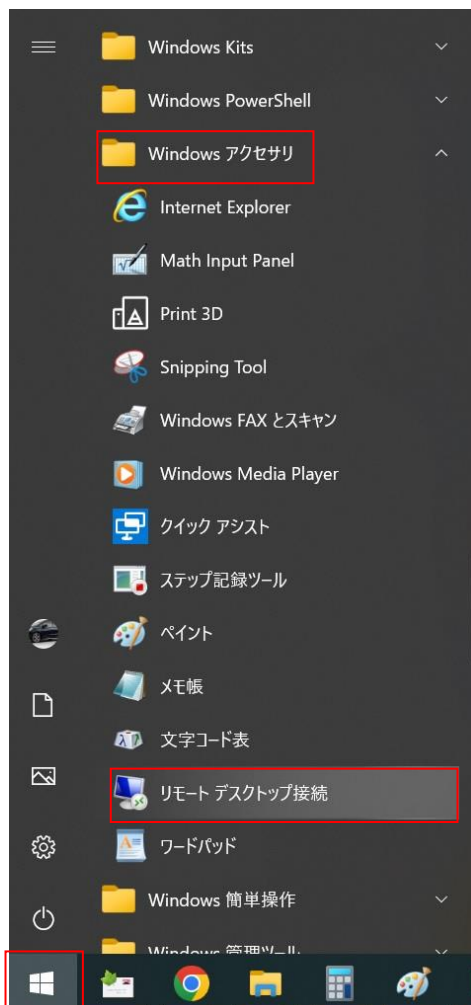
2. “リモートデスクトップ” にチェックを入れ、ご使用の環境に合わせて、[プライベート]と [パブリック]のチェックを入れ、[OK]をクリックします。



※ドメインを設定している場合は、ドメイン欄も表示されますので、ドメイン欄にチェックを入れます。既に設定されている場合は「キャンセル」をクリックして戻ってください。

5-2. Windows 10 からの接続例

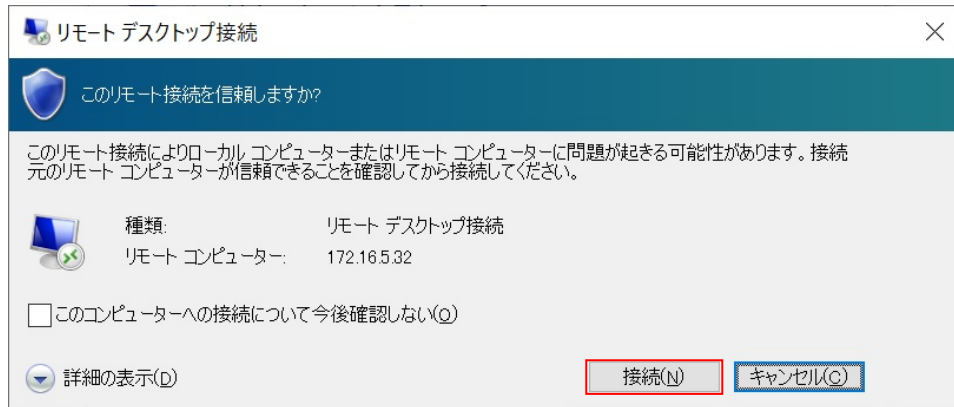
1. [Windows ボタン] を左クリック → [Windows アクセサリ] → [リモート デスクトップ接続] をクリックします。



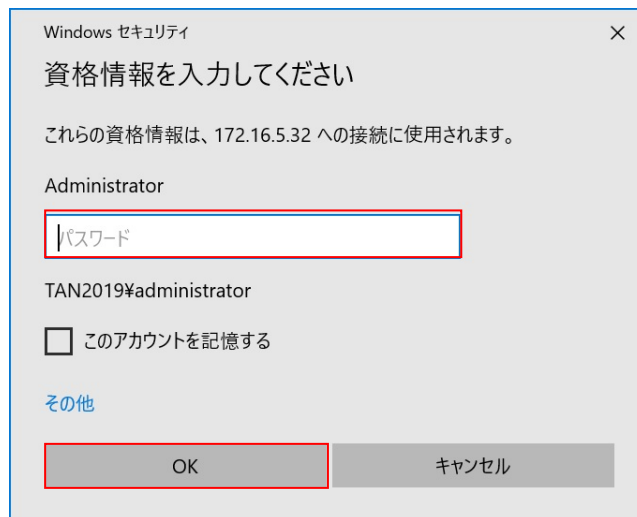
2. 接続先のサーバーの IP アドレスまたはサーバー名を入力し、[接続] ボタンをクリックします。



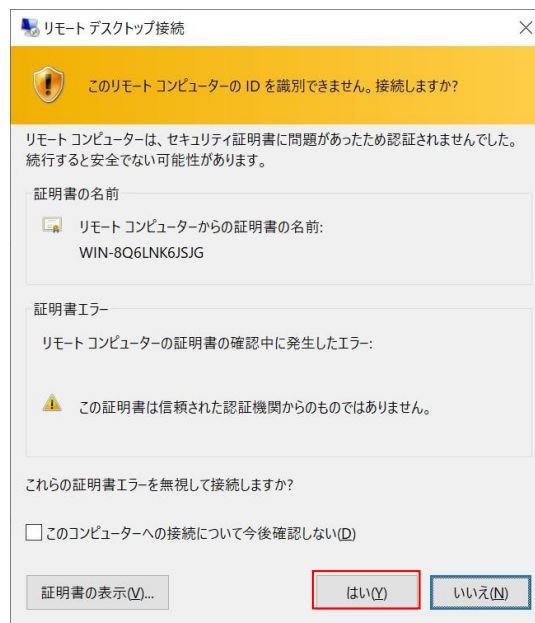
信頼確認画面が表示する場合、**[接続]** ボタンをクリックします。



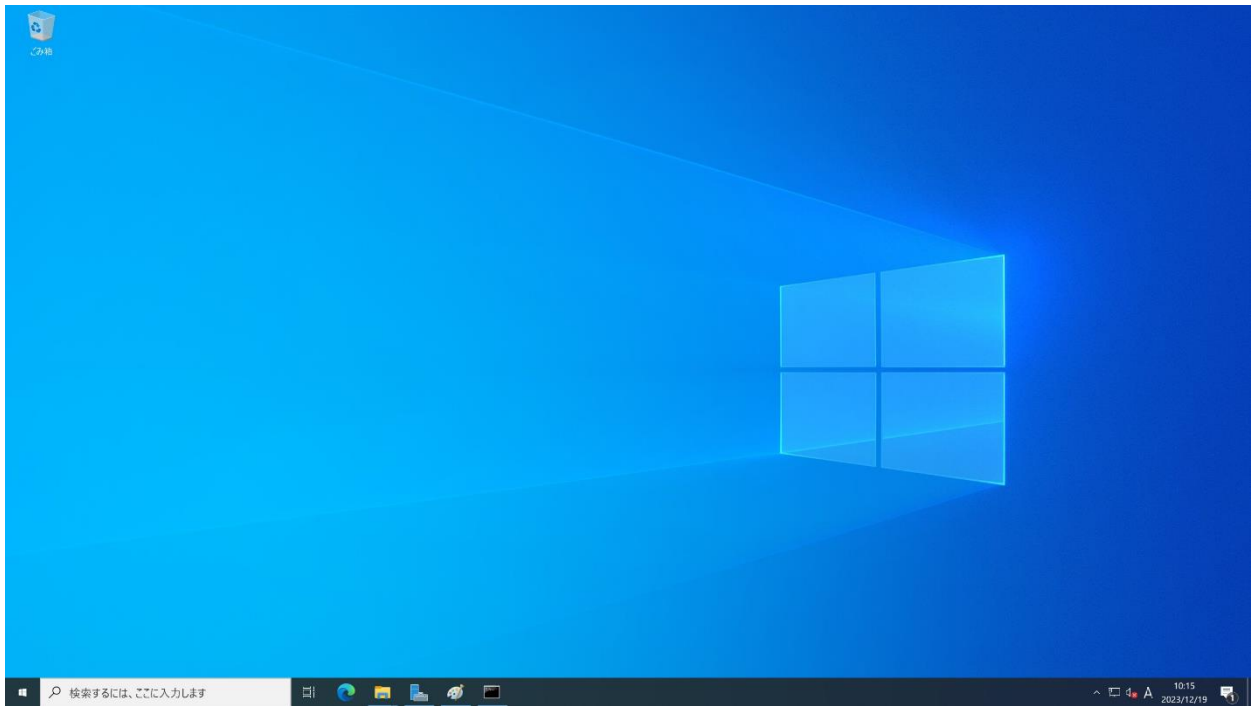
3. サーバーの管理者 (Administrator) パスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。



4. 注意画面が表示されますので、**[はい]** をクリックします。



5. 接続先のデスクトップが表示されます。



以上で、[リモートデスクトップ設定]は完了です。

6. リカバリー手順

Ness1000 シリーズ (Ness1000/Ness1200、以下は Ness と呼びます) を初期出荷構成の [Windows Server IoT 2022 for Storage] に戻すための手順について説明します。

この作業で使用するリカバリーISO イメージは DVD サイズを超えるため、ISO ファイルを USB メモリに起動可能な形式で書き込み、従来の DVD の代替として使用する手順を説明しています。

6-1-1. 準備部材

- ・ Ness 本体 (電源ケーブル)
- ・ ディスプレイ (Ness1000:RGB ポート/Ness1200:HDMI ポート)
- ・ キーボード
- ・ マウス
- ・ USB メモリ (USB2.0/USB3.0、16GB 以上、内容は消去されます)
- ・ リカバリーISO イメージファイル (弊社のホームページよりダウンロードしてください)

6-1-2. 起動可能な USB メモリの作成

※ 本書では USB メモリを作成する端末の OS は Windows 10 Professional で実施しています。

1. 最新バージョン (例 : Ver. 3.11) の Rufus (ルーファス) のソフトウェアを外部 WEB サイトより取得します。

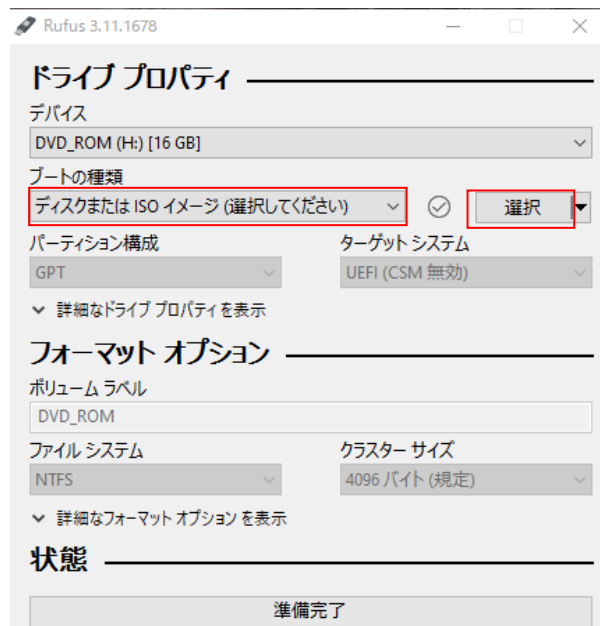
名前	更新日時	種類	サイズ
 rufus-3.11.exe	2020/07/01 14:35	アプリケーション	939 KB

注意 (利用上の責任)

「本書で紹介する Rufus (ルーファス) のソフトウェアはリカバリー手段の例として記載しておりますが、該当ソフトウェアの動作、安全性についてのサポートおよび保証を行うものではありません。フリーウェアのダウンロード、利用に関するリスク、運用と結果につきましては、当該ソフトウェア使用者の責に帰するものであり、その結果発生したいかなる損害において、株式会社ニューテックは補償をいたしません。」

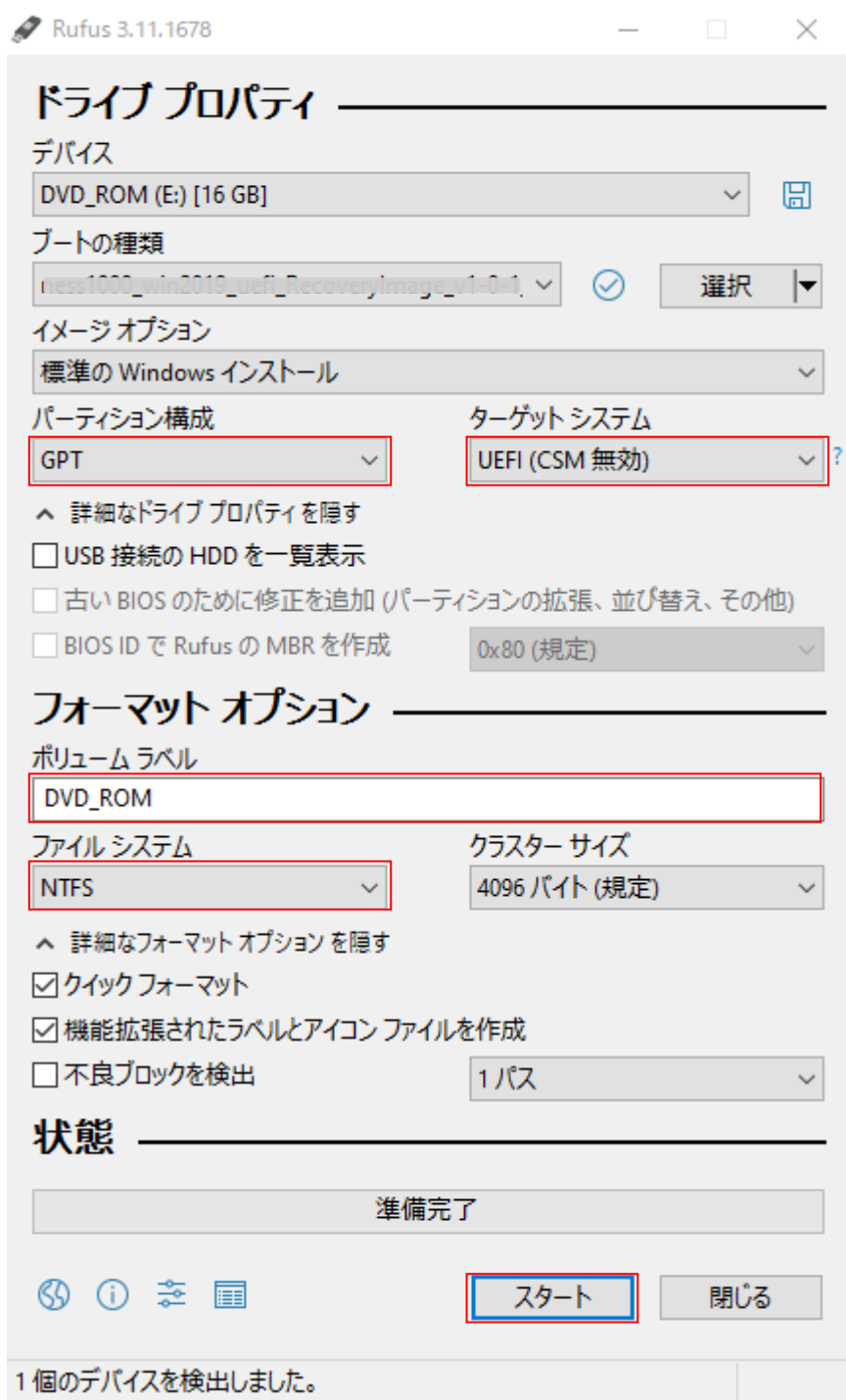
2. [rufus-x.xx.exe] のファイルをダブルクリックして、ソフトウェアを起動させます。

3. [ディスクまたは ISO イメージ (選択してください)] を選択し、右部の選択をクリックして、リカバリー用の ISO イメージファイルを選択します。



4. 下部の表を参考に設定が完了したら、[スタート] を押すとコピーが実行されます。

各種設定項目
・デバイス
作成する USB メモリを選択
・イメージオプション
標準の Windows インストール
・パーティション構成とターゲットシステムの種類(デフォルト)
GPT
UEFI(CSM 無効)
・詳細なドライブプロパティ
(チェックなし)USB 接続の HDD を一覧表示
(チェックなし)古い BIOS のために修正を追加
(チェックなし)BIOS ID で Rufus の MBR を作成
・ボリュームラベル
DVD_ROM(※変更禁止)
・ファイルシステム
NTFS(※変更禁止)
・クラスタサイズ
4096 バイト
・フォーマット設定
(チェックあり)クイックフォーマット
(チェックあり)機能拡張されたラベルとアイコンファイルを作成
(チェックなし)不良ブロックを検出



5. コピーが終了したら、準備完了のステータスを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

以上で、“起動可能な USB メモリの作成”は完了です。

6-1-3. リカバリー手順

リカバリーの注意

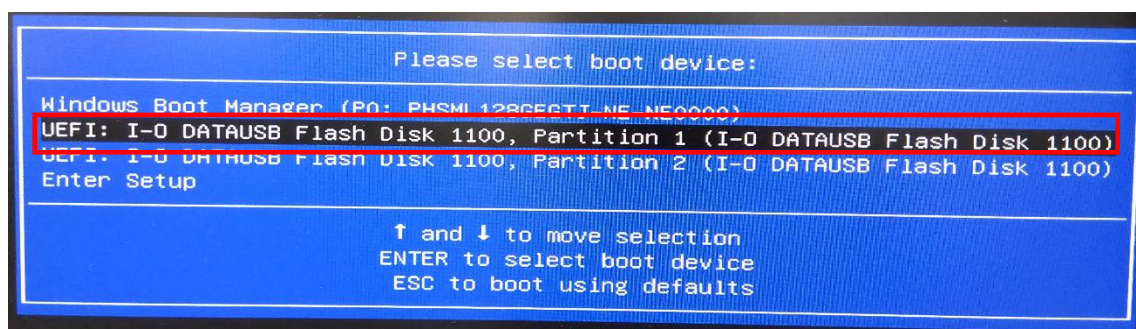
- ・HDD の取り外し、HDD の取り付けの操作は、必ず Ness の電源をオフにして実施します。
- ・OS リカバリーを行う前に、NAS の HDD スロットからミラーユニットの HDD を取り外して、内蔵 SSD メディアだけの状態にします。
- ・HDD の取り外し方法は、「Ness1000 シリーズ ユーザーズ・マニュアル」から“HDD モジュールの交換方法”を参照してください。
- ・リカバリー完了後、HDD を元に戻してください。

1. 電源オフした状態から始めます。
2. フロント HDD をスロットから抜き、背面にディスプレイ、キーボード、マウス、USB メモリを接続します。
3. 前面の電源ボタンを押し、装置を起動させます。起動時に Boot Menu の起動キーを数回押下し、Boot Menu 画面に入ります。

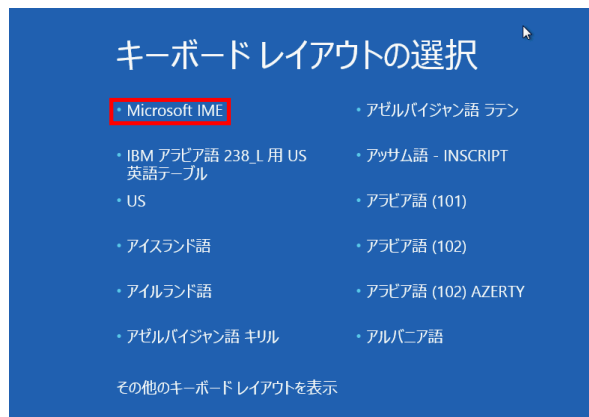
Boot Menu の起動キーは機種により、異なります。

Ness1000 の Boot Menu の起動キー： F11
Ness1200 の Boot Menu の起動キー： F8

下図のように、UEFI モードの USB メモリを選択して、Enter キーを押して起動します。



4. OS のロゴマークがしばらくの間表示された後、以下の“キーボードレイアウト”の選択画面が表示されますので、[Microsoft IME]を選択します。



5. “オプションの選択”画面が表示されるので、[トラブルシューティング]を選択します。



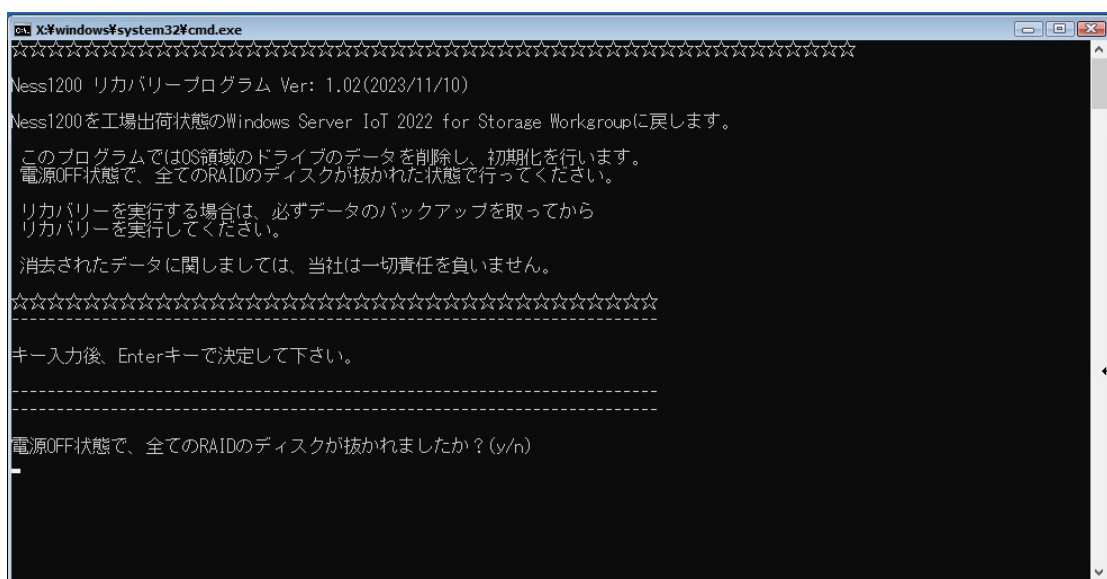
6. “トラブルシューティング”画面が表示されるので、[回復ツール]を選択します。



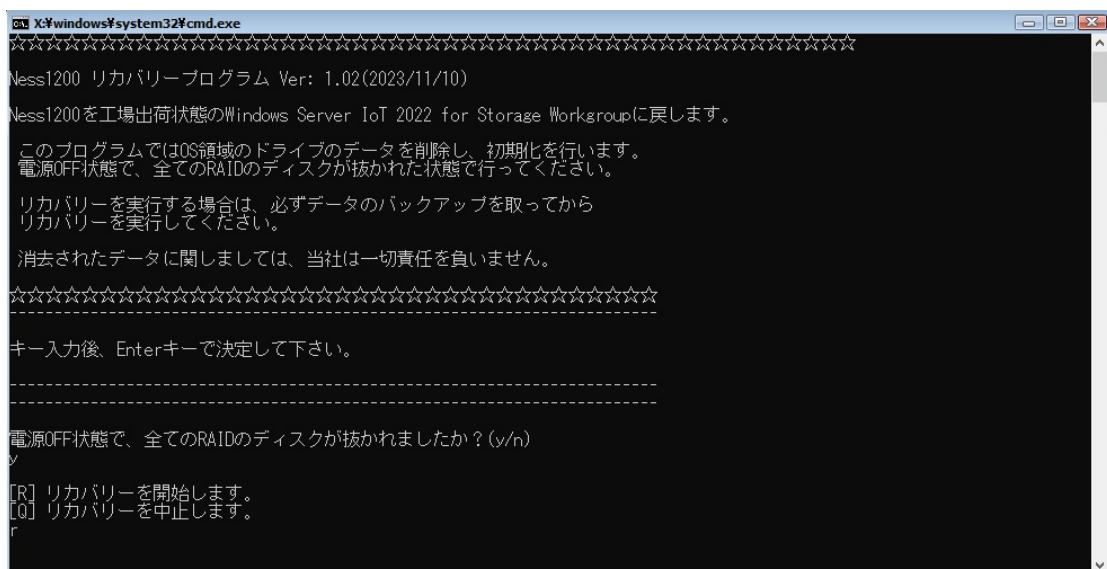
7. “回復ツール”画面で“Windows Server”が表示される場合、「Windows Server」を選択します。



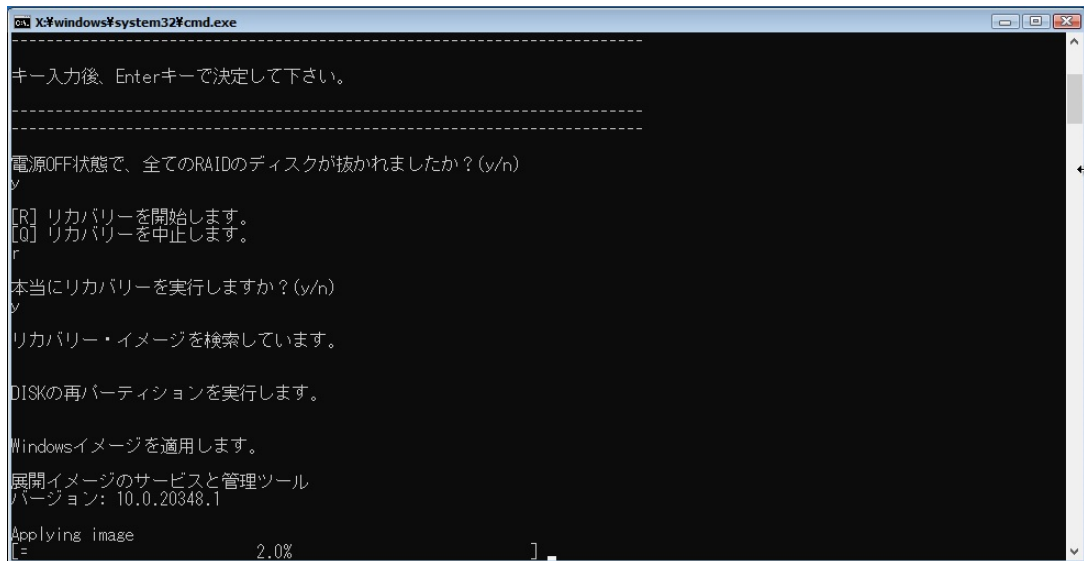
8. プロンプト画面が表示されます。



9. “全ての RAID のディスクが抜かれましたか？”と聞かれますので、抜かれていることが確認できたら、**[y]**キーを押し**[Enter]**キーで確定します。
続いてリカバリーを開始するには、**[r]**キーを押し**[Enter]**キーで確定します。

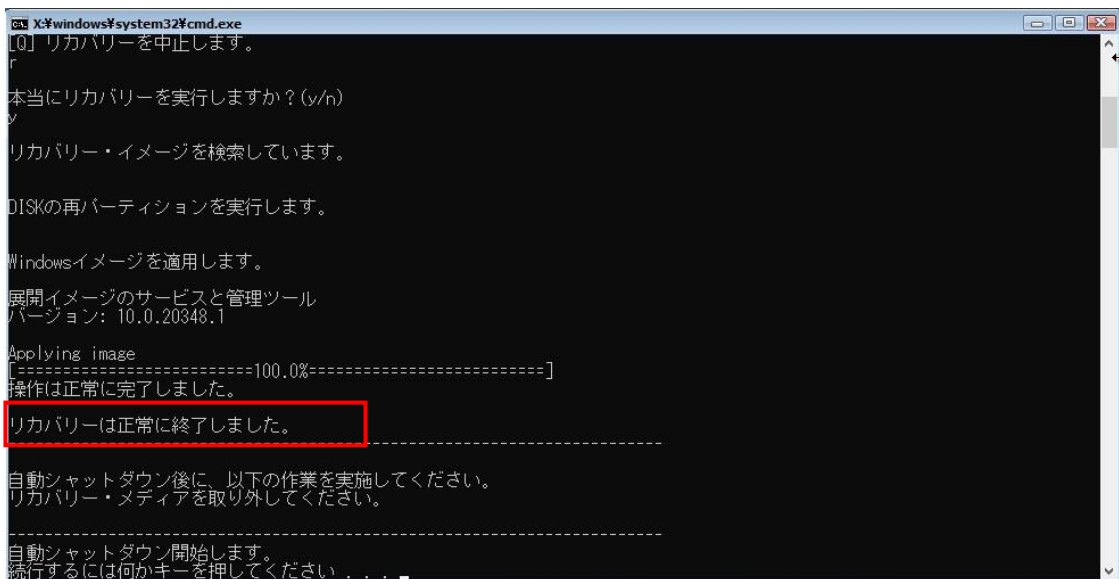


10. 確認メッセージが表示されるので、[y]キーを押し[Enter]キーで確定すると、リカバリーが開始され進捗が表示されます。



```
X:\windows\system32\cmd.exe
-----
キー入力後、Enterキーで決定して下さい。
-----
電源OFF状態で、全てのRAIDのディスクが抜かれましたか？(y/n)
y
[R] リカバリーを開始します。
[Q] リカバリーを中止します。
r
本当にリカバリーを実行しますか？(y/n)
y
リカバリー・イメージを検索しています。
DISKの再パーティションを実行します。
Windowsイメージを適用します。
展開イメージのサービスと管理ツール
バージョン: 10.0.20348.1
Applying image
=====
2.0%
```

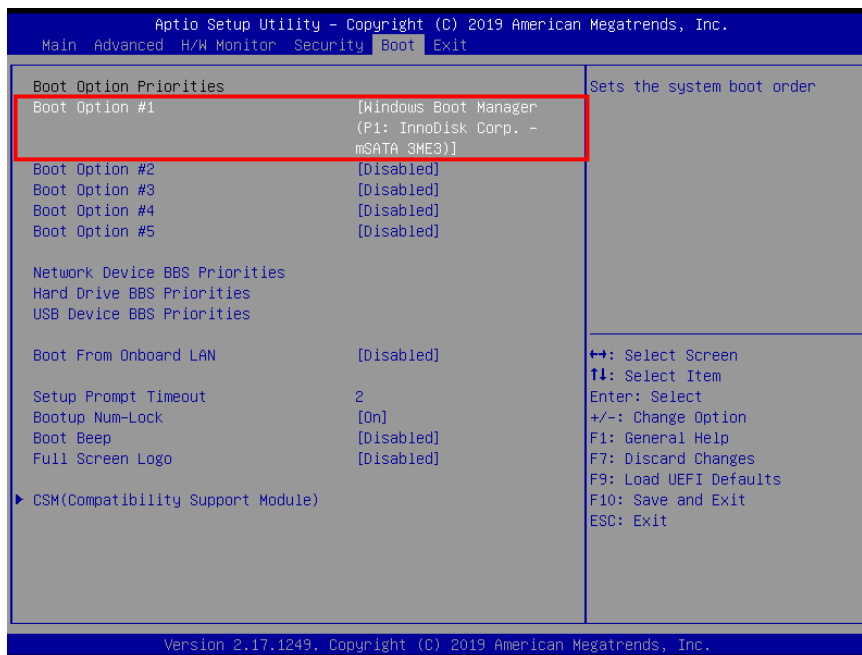
11. 進捗が100%になると、“リカバリーは正常に終了しました。”というメッセージが表示されます。
[Enter]キーを押し、装置がシャットダウンされます。電源オフになったら、USBメモリを抜き出します。



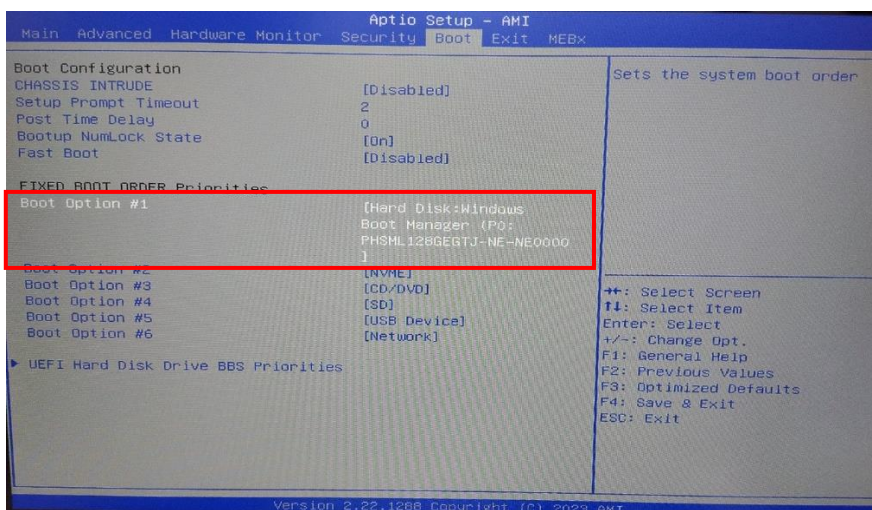
```
X:\windows\system32\cmd.exe
[Q] リカバリーを中止します。
r
本当にリカバリーを実行しますか？(y/n)
y
リカバリー・イメージを検索しています。
DISKの再パーティションを実行します。
Windowsイメージを適用します。
展開イメージのサービスと管理ツール
バージョン: 10.0.20348.1
Applying image
=====100.0%=====]
操作は正常に完了しました。
リカバリーは正常に終了しました。
-----
自動シャットダウン後に、以下の作業を実施してください。
リカバリー・メディアを取り外してください。
-----
自動シャットダウン開始します。
続行するには何かキーを押してください...
```

12. 電源オフ状態で、リカバリー時に取り外したHDDを取り付けてください。
前面の電源ボタンを押し、装置を起動させます。

13. 起動時に DEL キーを押し、BIOS 設定画面に入り、Boot Disk を確認および設定します。
 メニュー[BOOT] → [BOOT Option #1]で、下図の例のように、Windows Boot Manager を選択します。



Ness1000



Ness1200

メニュー[Save & Exit] → [Save Changes and Reset]を選択して、設定を保存して再起動が開始します。

以降は、前述の「Windows NAS OS セットアップ」を参照し設定を行なってください。

以上で、“リカバリー手順“は完了です。

株式会社ニューテック
<https://www.newtech.co.jp>

Copyright© 2024, Newtech Co., Ltd. All Rights Reserved.